

↓

シナリオを考える上での条件等を組み合わせ、シナリオを考える枠組みを用意する

※①③はすべてのグループに共通のシナリオとなります

## 【利用者】

	利用者の個別のニーズ・目的に適合した車いすを選択できる(利用できる、提供する)	利用者の経済的負担を軽減する
利用者の社会参加を促進する	【シナリオ1-①】	【シナリオ1-②】
車いすが社会にとけ込む(車いすが利用しやすい社会環境)	【シナリオ1-③】	【シナリオ1-④】
(参考)他者とのコミュニケーションを促進する	【シナリオ1-⑤】	【シナリオ1-⑥】

## 【処方者】

	利用者の個別のニーズ・目的に適合した車いすを選択できる(利用できる、提供する)	使いたくなる車いす・プレゼントしたくなる車いす
利用者の社会参加を促進する、ライフスタイルを実現する・生活を広げる	【シナリオ2-①】	【シナリオ2-②】
車いすが社会にとけ込む(車いすが利用しやすい社会環境)	【シナリオ2-③】	【シナリオ2-④】
(参考)介助(介助者、介助作業、介助操作等)を減らす	【シナリオ2-⑤】	【シナリオ2-⑥】

## 【製造業者・供給業者】

	利用者の個別のニーズ・目的に適合した車いすを選択できる(利用できる、提供する)	使いたくなる車いす・プレゼントしたくなる車いす
利用者の社会参加を促進する、ライフスタイルを実現する・生活を広げる	【シナリオ3-①】	【シナリオ3-②】
車いすが社会にとけ込む(車いすが利用しやすい社会環境)	【シナリオ3-③】	【シナリオ3-④】
(参考)他者とのコミュニケーションを促進する	【シナリオ3-⑤】	【シナリオ3-⑥】

## 【研究開発者】

	利用者の個別のニーズ・目的に適合した車いすを選択できる(利用できる、提供する)	利用者の経済的負担を軽減する
利用者の社会参加を促進する(自立を促進する)	【シナリオ4-①】	【シナリオ4-②】
車いすが社会にとけ込む(車いすが利用しやすい社会環境)	【シナリオ4-③】	【シナリオ4-④】
(参考)利用者の立場でデザイン・機能を考える	【シナリオ4-⑤】	【シナリオ4-⑥】

↓

アンケート2では、以上の枠組みで、シナリオの具体的イメージをご回答いただけます。すべてのマスを埋める必要はありません。

付録6

「車いすの未来を考える」ワークショップ 第2回準備アンケート  
(利用者グループ)

2012年8月10日

前回の質問01では、グループごとに、別添ファイルのような回答をお寄せいただきました。改めて感謝申し上げます。

皆様にご回答いただいた項目の中から、「15年後までの将来の姿を設定する上で大切にしたいこと」(以下では「未来軸」と呼びます)を、グループごとに抽出しました(別添ファイル参照)。

質問02 下の表は、「15年後までの将来の姿を設定する上で大切にしたいこと」(未来軸)を組み合わせたものです。

・それぞれのマス(未来軸の組合せ)に当てはまる15年後(または途中の適当な時期、今すぐも可)の「車いす利活用」に関するイメージ(車いすの利用の様子、社会的環境や制度のあり方、利用者、処方者、製造業者、研究開発者のそれぞれの様子等)をお書きください。

※期待したいこと、メリット、デメリット、限界、疑問点など思いつくことを、キーワードや箇条書き等の形でお書きください。

※よい側面だけでなく、望ましくない可能性などを書いていただいても構いません。

※前回のご自身の回答や別添のアンケート1のまとめを参照していただき、他のグループの回答を含めて、それらを参考にしたり、そのまま写したりして、ご回答いただいても構いません。※同じ項目が多数のマスに重複して記載されていても構いません。

※記入スペースは、適宜、拡大してください。

※すべてのマスを埋めなくても結構です。空欄があっても構いませんので、可能な範囲でご回答ください。

回答欄

未来軸	利用者の個別のニーズ・目的に適合した車いすを選択できる(利用できる、提供する)	利用者の経済的負担を軽減する
利用者の社会参加を促進する	【シナリオ1-①】 ・ ・	【シナリオ1-②】 ・ ・
車いすが社会にとけ込む(車いすが利用しやすい社会環境)	【シナリオ1-③】 ・ ・	【シナリオ1-④】 ・ ・
(参考)他者とのコミュニケーションを促進する	【シナリオ1-⑤】 ・ ・	【シナリオ1-⑥】 ・ ・

回答例(シナリオ③の場合)：

- ・必要に応じて違うタイプの複数の車いすを利用できる
- ・車いす利用が当たり前の社会になっている
- ・さまざまなタイプの車いすが走れるように道路が整備されている

- ・車いすの利用者とその他の人がエレベータを共用できる
- ・社会インフラの整備に資金と時間がかかる

質問03 その他ご意見・ご希望があれば、どのようなことでもかまいませんので、お知らせください。

ご回答は、[ml-rikatsuyou@rehab.go.jp](mailto:ml-rikatsuyou@rehab.go.jp) へ8月23日までにお送りください。

(注) ml-rikatsuyou-1@rehab.go.jp へ返信された場合は、回答がグループに共有されます。回答者を公表したくない場合は、[ml-rikatsuyou@rehab.go.jp](mailto:ml-rikatsuyou@rehab.go.jp) へ返信してください。

【この質問に基づいて、事務局で、グループごとにシナリオ案を整理します。次回の第3回事前アンケートでは、シナリオ案を実現する上での課題や問題点等をご指摘していただく予定です】

お願い

次回の第3回事前アンケート、ワークショップ当日の議論の参考となる資料を、8月末ころから順次みなさまにご紹介する予定です。もし皆様をご存知の資料や調査報告等で参考になりそうなものがございましたら、ご紹介いただければ幸いです。

とくに期限は設けませんので、可能なときにご紹介ください。

情報提供は、[ml-rikatsuyou@rehab.go.jp](mailto:ml-rikatsuyou@rehab.go.jp) へお願いします。

## シナリオのイメージ

## A. 主要シナリオ（1～6）

共通番号	1
もとの番号	1-①、2-①、3-①、4-①
対応グループ	共通
シナリオ軸1	利用者の個別のニーズ・目的に適合した車いすを選択できる（利用できる、提供する）
シナリオ軸2	利用者の社会参加を促進する、ライフスタイルを実現する・生活を広げる
1. 利用者	<p>【利用目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じて複数の車いすを利用できる</li> <li>・選択の幅の拡大（機能・デザインなど）</li> <li>・自由に何処にでも行ける機能（バッテリー・モーター・四駆機能の充実）</li> <li>・可能な限り単独で移動可能</li> <li>・1日外出あるいは勤務するために必要な機能を提供する</li> <li>・危険回避</li> <li>・自慢したくなる車イス</li> <li>・健常者が羨む車イス</li> </ul> <p>【技術】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・車いすの高機能化</li> <li>・急速充電できるバッテリーを開発する</li> <li>・電動車いすの走行技術 軽量化、コンパクト化、急速充電、長距離走行、前輪回し、砂利道・芝生走行、凹凸振動を伝えない車いす</li> <li>・危険回避のための技術 前転倒防止する段差検知、横転倒防止する片傾斜検知、衝突される危険防止</li> <li>・15cm程度の段差を乗降する機能を提供する</li> <li>・幅広の車輪（素材の検討）</li> <li>・2駆と4駆の切り替え機能</li> <li>・傘フード・防水・排水機能（全天候型車椅子）</li> <li>・障害をカバーするモジュール機能の充実（長時間の使用でも負担少）</li> <li>・1日外出あるいは勤務するために必要な機能を提供するために 排泄（大便、小便）の管理を補助する機能 衣服を脱ぎ着できる機能、あるいは体温を調節できる洋服 上肢を補助する機能（食事をする、物を運ぶなど）</li> </ul>
2. 処方者	<p>【利用目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・車いす利用者が特別扱いされないこと</li> <li>・一般住宅での利用もあたりまえであること</li> <li>・使用場面によっては複数車椅子の所持</li> <li>・社会参加の場の増加</li> <li>・自己管理が社会的自立を促す</li> </ul> <p>【技術】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単に機能の切り替えができる車いす</li> </ul> <p>【制度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報提供の方法</li> <li>・車椅子作製時の専門職の関わり</li> <li>・様々なニーズをどのように整理するか課題</li> <li>・利用者の積極的参加</li> <li>・レンタル車椅子の普及</li> <li>・「適合」について身体機能も考慮して的確に評価できるかが重要</li> </ul> <p>【社会環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別のニーズの車いすに適応できる公共の環境が必要</li> </ul>
3. 製造業者・供給者	<p>【利用目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般のレストラン等でも同じテーブルと一緒に付ける機能</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者が増加するので余暇に対応する車椅子</li> </ul> <p>【技術】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・車の代わりになるくらいの走行性能の高い車椅子</li> <li>・車載しやすく、持ち運びやすい車椅子</li> </ul> <p>【制度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の生活を適切に判断してくれる相談センター</li> <li>・QOLを高める多機能型の電動車椅子を得られる制度</li> <li>・IADLへの適応</li> </ul> <p>【社会環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会環境の問題</li> </ul>
4. 研究開発者	<p>【利用目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・状態・環境に適合した選択ができるようになっている</li> </ul> <p>【技術】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健常者並みの移動速度や小回りの効く車いすが開発される。</li> <li>・公共交通機関の乗降段差、溝解消対応車椅子</li> <li>・エレベータ内で立ち乗りタイプに変形（場所取らず、目線も健常者と同等）</li> <li>・車椅子とIT機能一体化（手放せない乗り物）</li> </ul> <p>【制度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全性が確保された車いすだけが利用されている</li> </ul>
特記事項	

共通番号	2
もとの番号	1-③、2-③、3-③、4-③
対応グループ	共通
シナリオ軸1	利用者の個別のニーズ・目的に適合した車いすを選択できる（利用できる、提供する）
シナリオ軸2	車いすが社会にとけ込む（車いすが利用しやすい社会環境）
1. 利用者	<p>【利用目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・車いすが見慣れる社会</li> <li>・皆が注目するような車椅子（デザイン・機能性）</li> <li>・車いす外出が増え見慣れれば、手伝う人が躊躇しなくなる</li> </ul> <p>【技術】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・車いすの高機能化</li> <li>・社会環境整備は困難、それをカバーできる機能</li> <li>・一定のスピードの出せる機能（速足歩き程度）</li> <li>・荷物の収納機能と転倒防止機能</li> </ul> <p>【社会環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育機関等公共機関のより進んだバリアフリー化</li> <li>・複数の車いすを想定した環境（トイレ、テーブル、駐車場）</li> <li>・車いすがいられる多目的スペースをあらゆる場所に用意する（電車の車いすスペースのように）</li> <li>・車いすが走りやすい道路の整備</li> <li>・車いす利用可能な歩道環境</li> <li>・前輪も安全な路面の凹凸、直進可能な排水傾斜の角度、見づらい段差は注意表示</li> <li>・利用しやすい施設や交通機関の整備</li> <li>・電動スロープ付き電車（韓国のようなスムーズな乗り降り）</li> </ul>
2. 処方者	<p>【利用目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会参加の場の増加</li> <li>・利用者の積極的参加</li> <li>・車いすという機器へのイメージを誰もが「道具」と認識すること</li> </ul> <p>【社会環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・物理的バリアの解消・軽減</li> <li>・社会環境整備には、ソフト（人）ハード（建）両面の対応が必要</li> <li>・車いすを利用すればできる事が増えることを知ってもらう</li> </ul>

	・車いす側の改善でもできる
3. 製造業者・供給者	<b>【利用目標】</b> ・飛行機や車、電車に乗車時のハードルを下げるシステム ・車いすユーザーのメディア露出 ・社会の目 <b>【制度】</b> ・車いすの事故防止や技術やルールを体得できる練習の場を作る ・電動車椅子の免許制導入と8km/hも利用できる特例資格を加える ・車いすの選択は、医療モデルから社会モデルに（医者が支給判定するのではなく、個人の希望を中心に） <b>【社会環境】</b> ・段差や電柱などの障害物がない環境。 ・車椅子と併歩（走）できる道幅等の環境 ・電気自動車と併用できる充電所の設置 ・経済目的だけでなく、その人の存在を生かす働き場の構築
4. 研究開発者	<b>【利用目標】</b> ・広告媒体としての車いすが街中を走っている ・健常者が利便性を感じ、乗りたくなるような車椅子（法規制も含め対応） <b>【社会環境】</b> ・公共交通機関の段差・溝解消、車道・歩道の段差解消、階段の解消 ・さまざまなタイプの車いすが走れるように道路が整備されている ・エスカレータ乗降マナーの標準化 ・社会インフラの整備に資金と時間がかかる
特記事項	

共通番号	3
もとの番号	1-⑤、3-⑤
対応グループ	1、3
シナリオ軸1	利用者の個別のニーズ・目的に適合した車いすを選択できる（利用できる、提供する）
シナリオ軸2	他者とのコミュニケーションを促進する
1. 利用者	<b>【利用目標】</b> ・車いすのオプションを増やす ・より細かな成長対応 <b>【技術】</b> ・車いすの高機能化 ・一定の段差解消機能 ・座面昇降機能（相手との視線の一致） ・外出先の机への車いす適応力（テーブル下の高さ、テーブル足の形状） ・コミュニケーションツール等の充実 ・電子機器（PCやタブレット）を長時間利用できるように電動車いすのバッテリーから電気を使えるようなオプションを用意する <b>【社会環境】</b> ・不慣れた店員さんも操作可能に 入口段差で持上／ウィリー、狭い店内でテーブル案内
3. 製造業者・供給者	<b>【社会環境】</b> ・障がい者に違和感なく、共生できるよう小さい頃からのインクルージング教育 ・地域コミュニティの形成
特記事項	

共通番号	4
もとの番号	1-②、4-②
対応グループ	1、4
シナリオ軸1	利用者の経済的負担を軽減する

シナリオ軸2	利用者の社会参加を促進する、ライフスタイルを実現する・生活を広げる
1. 利用者	<b>【技術】</b> ・一台の車椅子で、一定範囲での座幅・座高等の調整可能（買換え不要な車椅子） <b>【制度】</b> ・福祉制度の充実 ・行政の補助制度の充実 ・支給金額の上限を設けず、QOLを向上させる機能は積極的に支給する ・複数支給可能な補助制度 本格／簡易電動車いす、外出用／室内用車いす ・ニーズに合った車いすを少ない費用負担で利用できる ・リース制度の充実
4. 研究開発者	<b>【技術】</b> ・複数P F（プラットフォーム）の大量生産とアプリ対応インターフェイスの標準化 <b>【制度】</b> ・安全性確保、選定、適合、試用、トレーニング等がワンストップでできる民間運営センターが設立される ・購入やレンタルに関する補助制度が改善され、社会的弱者の負担が軽減される ・傷害保険の選択肢として補助金を受給できるようにする ・走った距離や立ち寄った場所に応じて補助金が出るしくみ エコと社会参加と経済的負担軽減
特記事項	

共通番号	5（新）
もとの番号	1-④、4-④、1-⑥
対応グループ	1、4
シナリオ軸1	利用者の経済的負担を軽減する
シナリオ軸2	車いすが社会にとけ込む（車いすが利用しやすい社会環境） <他者とのコミュニケーションを促進する>
1. 利用者	<b>【技術】</b> ・一台の車椅子で、一定範囲での座幅・座高等の調整可能（買換え不要な車椅子） ・素材・色・形等専門のデザイナーの配置（開発時点） <b>【制度】</b> ・車いす屋さんとの連携 連絡先一覧表の作成、近くの掛り付けを見つける、使い難さを相談、工夫で解決 ・行政の対応 ・行政の補助制度の充実 ・リース制度の充実 ・安価に利用可能な交通環境 バスのノンステップ全対応、タクシーのスロープ対応、レンタカーの福祉車導入 ・すべてのタクシーが車いすで利用できるようにする（福祉タクシーは高すぎます）
4. 研究開発者	<b>【制度】</b> ・車いす利用者に広告主から宣伝費が支払われる仕組みが構築されている ・電動車いす用の電池が標準化され、点在するステーションにて無償交換可能になる ・施設や公共交通機関の利用頻度に応じ、補助金受給
特記事項	

共通番号	もと5
もとの番号	1-④、4-④
対応グループ	1、4
シナリオ軸1	利用者の経済的負担を軽減する
シナリオ軸2	車いすが社会にとけ込む（車いすが利用しやすい社会環境）
1. 利用者	・行政の対応 ・すべてのタクシーが車いすで利用できるようにする

	<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉タクシーは高すぎます</li> <li>安価に利用可能な交通環境 バスのノンステップ全対応、タクシーのスロープ対応 レンタカーの福祉車導入)</li> <li>車いす屋さんとの連携 連絡先一覧表の作成、近くの掛り付けを見つける 使い難さを相談、工夫で解決</li> <li>素材・色・形等専門のデザイナーの配置（開発時点）</li> <li>一台の車椅子で、一定範囲での座幅・座高等の調整可能 買換え不要な車椅子</li> <li>行政の補助制度の充実</li> <li>リース制度の充実</li> </ul>
4. 研究開発者	<ul style="list-style-type: none"> <li>車いす利用者に広告主から宣伝費が支払われる仕組みが構築されている。</li> <li>電動車いす用の電池が標準化され、点在するステーションにて無償交換可能になる。</li> <li>施設や公共交通機関の利用頻度に応じ、補助金受給。</li> </ul>
特記事項	

共通番号	もと5'
もとの番号	1-⑥
対応グループ	1
シナリオ軸1	利用者の経済的負担を軽減する
シナリオ軸2	他者とのコミュニケーションを促進する
1. 利用者	<ul style="list-style-type: none"> <li>車いす屋さんとの連携 連絡先一覧表の作成、近くの掛り付けを見つける 使い難さを相談、工夫で解決</li> </ul>
特記事項	5と統合

共通番号	6（新）
もとの番号	2-②、3-②、2-④、3-④
対応グループ	2、3
シナリオ軸1	使いたくなる車いす・プレゼントしたくなる車いす
シナリオ軸2	利用者の社会参加を促進する、ライフスタイルを実現する・生活を広げる <車いすが社会にとけ込む（車いすが利用しやすい社会環境）>
2. 処方者	<p>【利用目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>車椅子利用者が社会参加していること</li> <li>いろいろな機種・デザインの車椅子が出回る 最近の杖のように 市場規模が大きくなり業者は機種やデザインを増やさないだろう</li> <li>デザインの改善</li> <li>サイズだけでなく素材や色を選べること</li> <li>眼鏡のような存在、おしゃれに考えられると良い</li> <li>価格が安く、メンテナンスがしやすいこと</li> <li>車いすが自転車と同じ感覚で入手でき、メンテナンスできること</li> </ul> <p>【技術】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>機能・使い勝手の向上</li> <li>利用者の要望にどこまで対応できるか課題</li> <li>デザイナーズブランドがあること</li> </ul> <p>【制度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>車椅子作製時の専門職の関わり</li> </ul> <p>【社会環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市中に車椅子の展示スペース</li> </ul> <p>【問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>使いたくなるのは誰か、その要素はなにか</li> <li>プレゼントとは健常者へのプレゼントもありうるのか</li> <li>車いすを使うのは障害者だけか</li> <li>地味にとけ込む配慮をするか、派手に主張するかは本人の価値観があるので考え 方次第</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>本来使用したくないもの、マイナスをプラスに変えるには利用者の理解を得る必要がある</li> </ul>
3. 製造業者・供給者	<p>【利用目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分でパーツをカスタマイズできる車椅子</li> <li>高級ブランド製の車椅子</li> </ul> <p>【技術】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>屋内外走行機能、自操介助機能をすべてそろえた車椅子</li> <li>超軽量の車椅子</li> <li>デザイン性の高いもの</li> </ul> <p>【制度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>マジックハンド付きの車いすが支給の対象となる。</li> </ul> <p>【社会環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>車いすCM</li> </ul>
特記事項	

共通番号	もと6
もとの番号	2-②、3-②
対応グループ	2、3
シナリオ軸1	使いたくなる車いす・プレゼントしたくなる車いす
シナリオ軸2	利用者の社会参加を促進する、ライフスタイルを実現する・生活を広げる
2. 処方者	<p>【利用目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>機能・使い勝手の向上</li> <li>デザインの改善</li> <li>サイズだけでなく素材や色を選べること</li> <li>価格が安く、メンテナンスがしやすいこと</li> </ul> <p>【技術】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デザイナーズブランドがあること</li> <li>利用者の要望にどこまで対応できるか課題</li> </ul> <p>【制度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>車椅子作製時の専門職の関わり</li> </ul> <p>【問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>使いたくなるのは誰か、その要素はなにか</li> <li>プレゼントとは健常者へのプレゼントもありうるのか</li> <li>車いすを使うのは障害者だけか</li> <li>本来使用したくないもの、マイナスをプラスに変えるには利用者の理解を得る必要がある</li> </ul>
3. 製造業者・供給者	<p>【利用目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分でパーツをカスタマイズできる車椅子</li> <li>高級ブランド製の車椅子</li> </ul> <p>【技術】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>屋内外走行機能、自操介助機能をすべてそろえた車椅子</li> <li>超軽量の車椅子</li> <li>デザイン性の高いもの</li> </ul> <p>【制度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>マジックハンド付きの車いすが支給の対象となる。</li> </ul>
特記事項	

共通番号	もと6'
もとの番号	2-④、3-④
対応グループ	2、3
シナリオ軸1	使いたくなる車いす・プレゼントしたくなる車いす
シナリオ軸2	車いすが社会にとけ込む（車いすが利用しやすい社会環境）
2. 処方者	<p>【利用目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>車椅子利用者が社会参加していること</li> <li>いろいろな機種・デザインの車椅子が出回る 最近の杖のように 市場規模が大きくなり業者は機種やデザインを増やさないだろう</li> <li>車いすが自転車と同じ感覚で入手でき、メンテナンスできること</li> <li>眼鏡のような存在、おしゃれに考えられると良い</li> </ul>

	【社会環境】 ・市中に車椅子の展示スペース 【問題点】 ・地味にとけ込む配慮をするか、派手に主張するかは本人の価値観があるので考え次第
3. 製造業者・供給者	【社会環境】 ・車いすCM
特記事項	6と統合

B. 回答された内容が少ないシナリオ（7～8）

共通番号	7（新）
もとの番号	2-⑤、2-⑥
対応グループ	2
シナリオ軸1	利用者の個別のニーズ・目的に適合した車いすを選択できる（利用できる、提供する） ＜使いたくなる車いす・プレゼントしたくなる車いす＞
シナリオ軸2	介助負担（介助者、介助作業、介助操作等）を減らす
2. 処方者	【利用目標】 ・機能・使い勝手の向上 ・価格が安く、メンテナンスがしやすいこと 【技術】 ・いすとしての機能を大切に、安楽に過ごせるように配慮する ・安全性に配慮する 【制度】 ・介助量軽減も（支給の）目的として認める ・情報提供の方法 【問題点】 ・軽量・小型なものが良いが、様々な機能を付けたいというように相反する事になってしまう
特記事項	介助の負担（介助者、介助作業、介助操作等）の軽減を共通目標として考慮

共通番号	もと7
もとの番号	2-⑤
対応グループ	2
シナリオ軸1	利用者の個別のニーズ・目的に適合した車いすを選択できる（利用できる、提供する）
シナリオ軸2	介助負担（介助者、介助作業、介助操作等）を減らす
2. 処方者	・介助量軽減も目的として認める ・機能・使い勝手の向上 ・価格が安く、メンテナンスがしやすいこと ・情報提供の方法 ・軽量・小型なものが良いが、様々な機能を付けたいというように相反する事になってしまう
特記事項	

共通番号	もと7
もとの番号	2-⑥
対応グループ	2
シナリオ軸1	使いたくなる車いす・プレゼントしたくなる車いす
シナリオ軸2	介助（介助者、介助作業、介助操作等）を減らす
2. 処方者	・機能・使い勝手の向上 ・価格が安く、メンテナンスがしやすいこと ・情報提供の方法 ・いすとしての機能を大切に、安楽に過ごせるように配慮する ・安全性に配慮する
特記事項	7と統合

共通番号	8（新）
もとの番号	4-⑤

対応グループ	4
シナリオ軸1	利用者の個別のニーズ・目的に適合した車いすを選択できる（利用できる、提供する） ＜利用者の経済的負担を軽減する＞
シナリオ軸2	利用者の立場でデザイン・機能を考える
4. 研究開発者	【利用目標】 ・好みのデザインや自分に必要な機能を持つ車いすを選択できる ・コンサルティング事業をする業者が現れる 【技術】 ・思い通りに進める操作性（重心移動、脳波等） ・原付並みの走行能力と歩道も走れるパーソナルEV車椅子（i-unitのような） ・近場の移動にパーソナルEV車椅子を使用で経済負担軽減 【問題点】 ・かっこいいデザインや高機能を追及すると、逆に高価なものになる
特記事項	「利用者の立場でデザイン・機能を考える」は共通的要素として取り込む

共通番号	もと8
もとの番号	4-⑤
対応グループ	4
シナリオ軸1	利用者の個別のニーズ・目的に適合した車いすを選択できる（利用できる、提供する）
シナリオ軸2	利用者の立場でデザイン・機能を考える
4. 研究開発者	・好みのデザインや自分に必要な機能を持つ車いすを選択できる。 ・コンサルティング事業をする業者が現れる。 ・思い通りに進める操作性（重心移動、脳波等） ・原付並みの走行能力と歩道も走れるパーソナルEV車椅子（i-unitのような）
特記事項	

共通番号	もと8
もとの番号	4-⑥
対応グループ	4
シナリオ軸1	利用者の経済的負担を軽減する
シナリオ軸2	利用者の立場でデザイン・機能を考える
4. 研究開発者	・かっこいいデザインや高機能を追及すると、逆に高価なものになる。 ・近場の移動にパーソナルEV車椅子を使用で経済負担軽減
特記事項	8と統合

C. 除外（9）

共通番号	9
もとの番号	3-⑥
対応グループ	3
シナリオ軸1	使いたくなる車いす・プレゼントしたくなる車いす
シナリオ軸2	他者とのコミュニケーションを促進する
3. 製造業者・供給者	
特記事項	廃止（回答なし）

その他のコメント

1. 利用者	・どの様な車いすを利用されている方が理解できると、今後話しやすいと思います。 ・使い方はそれぞれですが、使い難さを解決した工夫／まだ解決できず我慢している事例を整理していけば、課題も具体的になって行くと思います。
1. 利用者	利用者の経済的負担の軽減や社会的環境等の課題と、新しい車椅子の開発・検討を同時

	<p>に考えると、つい現実の状況が頭に浮かび発想が浮かんでこなくなる。                  健常者と同軸で考えてはいけないこととは思いますが、健常者の場合は移動手段の一つとしてマイカーがあり、これは全て自己負担で購入している。障害者の車椅子も同様に考えられる必要があるのではないのでしょうか？（その場合、経済力では劣る？障害者に対しての助成制度等の充実が必要となってくる）。単に車椅子に対するニーズやそれに対応する開発だけの問題ではなく、活用する上での「ソフト」面（極めて広い意味で）の両方からの検討が必要ではないかと思われる。                  機能と負担、そしてそれを可能とする技術が、同じレベルで検討される必要があるのではないのでしょうか？</p>
<p>3. 製造業者・供給者</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車いすを考えるにあたって、それは単独で存在するのではなく、「社会環境」や「周りの人が障がい者をどう受け止めるか」とセットとして考える必要がある。</li> <li>・車いすを使ってその人生がどのように実現できるか、どのようなものを実現したいか、という願いが先にあり（意識していなくても）、それを実現する道具と考える。</li> <li>・与える福祉から、自主性（自立）を促進するシステムへ。</li> <li>・障がい者を、一番弱い人を基準に一律に捉える制度から、可能性のある人は伸ばし、守らなくてはならない人は安全に・・・と状況に合わせたシステムに。</li> </ul>

付録8 「車いすの未来を考える」ワークショップ 第3回準備アンケート

第1回および2回のアンケートから、まとまった回答が得られた6件の主要なシナリオを整理しました。

事前調査2で取り上げたシナリオは各グループ6件ですが、グループ間で共通するシナリオもあるので全体では13シナリオになります(このうち1件については回答なし)。また、別紙「回答状況」に整理したように回答がほとんど同じシナリオをまとめると8件になりました。うち2件はシナリオの内容に関する回答が少ないものの、共通的に考慮する条件として扱うことができることから、今後は独立のシナリオとしてではなく、シナリオの要件として検討することとします。

結果として、シナリオは6種類に集約しました。アンケートではこの6種について質問します。

<p><b>回答の傾向について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・非常に多くの回答をいただきました。</li> <li>・回答には将来の車いすの利用イメージだけでなく、技術的要求や制度への期待、社会環境のあり方など多岐にわたっていました。</li> <li>・利用者グループがもっとも詳細に車いすや環境面の技術的要求や期待を回答しました。</li> <li>・キーワードのみの回答であったため、表現に曖昧さが残ったり、多義的であったりするケースが多々ありました。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・「誰の」「誰にとつての」「誰が」等、どの立場を指し示しているのか不明確なケースがありました。</li> <li>・「個別的ニーズ・目的に適合した車いすを選択できる」と言った場合、利用者は「個々の利用者が(複数の)車いすを目的に適合して選択できる、または1台の車いすで多様な目的や条件下で利用できる」ことを重視しているのに対して、処方者、製造業者・供給業者、研究開発者は「多様な利用者の個別的なニーズに幅広く応える」ことを重視しているように読み取れました。</li> </ul> </li> </ul> <p>→今後は明確にしていく必要があります</p>
---

以上を踏まえて、以下のとおり第3回目の準備アンケートを行います。

第3回準備アンケート

質問04 以下は回答が得られた主要なシナリオ6件について、回答の内容を整理したものです。それぞれのシナリオについて

- ①目標を実現する上で課題となる現状の問題点
- ②目標を実現する上で予想される障害や困難
- ③シナリオの内容、イメージ、期待等の追加説明、追加したい事項、実現する方法・手段、実現する上での課題等
- ④その他(シナリオの問題点、シナリオの不明確な点等)

を、お答えください(色のついたマスに記入してください)。

自分のグループだけでなく、すべてのグループの回答をヒントにして、追加したいキーワードや修正したいキーワード(期待したいこと、メリット、デメリット、限界など)、何を實現すべきか、解決すべき課題は何か等)、思いつくことをキーワードや箇条書き記入してください(例えば、利用者が期待する技術について、研究開発者の立場から、どのような方法で實現できるか、技術的課題は何か等、コメントを付けてください)。

すべてを埋める必要はありません。思いつく範囲で記入してください。

今回の回答を整理したものが、10月のワークショップの議論の材料となります。ただし、シナリオそのものは、当日の議論の中で練り上げますので、今回のシナリオがそのまま残るわけではありません。今回の作業は、当日議論する際に見落としがないように、あらかじめキーワードや論点を多面的に洗い出すためのものです。

シナリオ番号	①	
対応グループ	共通(利用者、処方者、製造業者・供給業者、研究開発者)	
方向性のポイント(未来軸の内容・組合せ)	利用者の個別のニーズ・目的に適合した車いすを選択でき、利用者の社会参加が促進される	
解説(事務局作成)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべてのグループに共通のシナリオです。とくに利用者グループから多くの回答が寄せられました。技術的課題についても利用者から詳細に指摘していただきました。</li> <li>・利用者は、多様な目的に合わせて複数台の車いすを選択できること、1台の車いすで多様な条件下で利用できること、単に移動の手段としてだけでなく生活や就労の支援をする機能を期待しています。</li> <li>・処方者や製造業者・供給業者のグループは、多様な車いすの提供を可能にするための制度的課題について指摘しています。多様なニーズに応える支援制度、レンタル制度等の整備のみならず、情報流通のあり方、処方や製造において利用者、処方者、製造業者・供給業者等がいかに参画するか、などの制度の運用のあり方も注目されています。</li> <li>・「個別的ニーズ・目的に適合した車いすを選択できる」と言った場合、利用者は「個々の利用者が(複数の)車いすを目的に適合して選択できる、または1台の車いすで多様な目的や条件下で利用できる」ことを重視しているのに対して、処方者、製造業者・供給業者、研究開発者は「多様な利用者の個別的なニーズに幅広く応える」ことを重視しているようです。どちらの観点を重視するか、両方とも重視するか、目標を明確にしつつ、それぞれの目標に適した対策や課題を検討していく必要があります。</li> </ul>	
①目標を実現する上で課題となる現状の問題点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> </ul>	
②目標を実現する上で予想される障害や困難	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> </ul>	
グループ	シナリオの内容、イメージ、期待等	③左記に説明を追加、左記に追加したい事項、左記を実現する方法・手段、実現する上での課題等
1. 利用者	<p>【利用目標(シナリオ)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じて複数の車いすを利用できる</li> <li>・選択の幅の拡大(機能・デザインなど)</li> <li>・自由に何処にでも行ける機能(バッテリー・モーター・四駆機能の充実)</li> <li>・可能な限り単独で移動可能</li> <li>・1日外出あるいは勤務するために必要な機能を提供する</li> <li>・危険回避</li> <li>・自慢したくなる車イス</li> <li>・健常者が羨む車イス</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> </ul>



	<p><b>【技術的課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・車いすの高機能化</li> <li>・急速充電できるバッテリーを開発する</li> <li>・電動車いすの走行技術 軽量化、コンパクト化、急速充電、長距離走行、前輪回し、砂利道・芝生走行、凹凸振動を伝えない車いす</li> <li>・危険回避のための技術 前転倒防止する段差検知、横転倒防止する片傾斜検知、衝突される危険防止</li> <li>・15cm程度の段差を乗降する機能を提供する</li> <li>・幅広の車輪（素材の検討）</li> <li>・2駆と4駆の切り替え機能</li> <li>・傘フード・防水・排水機能（全天候型車椅子）</li> <li>・障害をカバーするモジュール機能の充実（長時間の使用でも負担少）</li> <li>・1日外出あるいは勤務するために必要な機能を提供 排泄（大便、小便）の管理を補助する機能 衣服を脱ぎ着できる機能、または体温を調節できる洋服 上肢を補助する機能（食事をする、物を運ぶなど）</li> </ul> <p><b>【制度的課題】</b></p> <p><b>【社会環境に関する課題】</b></p>	
2. 処方者	<p><b>【利用目標（シナリオ）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・車いす利用者が特別扱いされないこと</li> <li>・一般住宅での利用もあたりまえであること</li> <li>・使用場面によっては複数車椅子の所持</li> <li>・社会参加の場の増加</li> <li>・自己管理が社会的自立を促す</li> </ul> <p><b>【技術的課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単に機能の切り替えができる車いす</li> </ul> <p><b>【制度的課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報提供の方法</li> <li>・車椅子作製時の専門職の関わり</li> <li>・利用者の積極的参加</li> <li>・レンタル車椅子の普及</li> <li>・「適合」について身体機能も考慮して的確に評価できるかが重要</li> </ul> <p><b>【社会環境に関する課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別のニーズの車いすが適応できる公共の環境が必要</li> </ul>	
3. 製造業者・供給者	<p><b>【利用目標（シナリオ）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般のレストラン等でも同じテーブルと一緒につける機能</li> <li>・高齢者が増加するので余暇に対応する車椅子</li> </ul> <p><b>【技術的課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・車の代わりになるくらいの走行性能の高い車椅子</li> <li>・車載しやすく、持ち運びやすい車椅子</li> </ul> <p><b>【制度的課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の生活を適切に判断でしてくれる相談センター</li> <li>・QOLを高める多機能型の電動車椅子を得られる制度</li> <li>・IADLへの適応</li> </ul> <p><b>【社会環境に関する課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会環境の問題</li> </ul>	

4. 研究開発者	<p><b>【利用目標（シナリオ）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・状態・環境に適合した選択ができるようになっている</li> </ul> <p><b>【技術的課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健常者並みの移動速度や小回りの効く車いすが開発される</li> <li>・公共交通機関の乗降段差、溝解消対応車椅子</li> <li>・エレベータ内で立ち乗りタイプに変形（場所取らず、目線も健常者と同等）</li> <li>・車椅子とIT機能一体化（手放せない乗り物）</li> </ul> <p><b>【制度的課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全性が確保された車いすだけが利用されている</li> </ul> <p><b>【社会環境に関する課題】</b></p>	
④その他(シナリオの問題点、シナリオの不明確な点等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> </ul>	

シナリオ番号	②	
対応グループ	共通（利用者、処方者、製造業者・供給者、研究開発者）	
方向性のポイント（未来軸の内容・組合せ）	利用者の個別のニーズ・目的に適合した車いすを選択でき、車いすが社会にとけ込む	
解説（事務局作成）	<ul style="list-style-type: none"> <li>すべてのグループに共通のシナリオです。とくに利用者グループから多くの回答が寄せられました。</li> <li>「個別的ニーズ・目的に適合した車いすを選択できる」ことも以上に、「社会の側の車いすを受容する条件が整備されること」に注目した回答が多いようです。</li> <li>車いす自体への期待よりも、社会的環境への期待や車いすで利用する道路や公共交通機関の技術的課題、制度的課題に関心が集まりました。</li> </ul>	
①目標を実現する上で課題となる現状の問題点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> </ul>	
②目標を実現する上で予想される障害や困難	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> </ul>	
グループ	シナリオの内容、イメージ、期待等	③左記に説明を追加、左記に追加したい事項、左記を実現する方法・手段、実現する上での課題等 ↓
1. 利用者	<b>【利用目標（シナリオ）】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>車いすが見慣れる社会</li> <li>皆が注目するような車椅子（デザイン・機能性）</li> <li>車いす外出が増え見慣れれば、手伝う人が躊躇しなくなる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> </ul>
	<b>【技術的課題】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>車いすの高機能化</li> <li>社会環境整備は困難、それをカバーできる機能</li> <li>一定のスピードの出せる機能（速足歩き程度）</li> <li>荷物の収納機能と転倒防止機能</li> </ul>	
	<b>【制度的課題】</b>	
	<b>【社会環境に関する課題】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>教育機関等公共機関のより進んだバリアフリー化</li> <li>複数の車いすを想定した環境（トイレ、テーブル、駐車場）</li> <li>車いすがいられる多目的スペースをあらゆる場所に用意する（電車の車いすスペースのように）</li> <li>車いすが走りやすい道路の整備</li> <li>車いす利用可能な歩道環境</li> <li>前輪も安全な路面の凹凸、直進可能な排水傾斜の角度、見づらい段差は注意表示</li> <li>利用しやすい施設や交通機関の整備</li> <li>電動スロープ付き電車（韓国のようなスムーズな乗り降り）</li> </ul>	
2. 処方者	<b>【利用目標（シナリオ）】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>社会参加の場の増加</li> <li>利用者の積極的参加</li> <li>車いすという機器へのイメージを誰もが「道具」と認識すること</li> </ul>	
	<b>【技術的課題】</b>	

	<b>【制度的課題】</b>	
	<b>【社会環境に関する課題】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>物理的バリアの解消・軽減</li> <li>社会環境整備には、ソフト（人）ハード（建）両面の対応が必要</li> <li>車いすを利用すればできる事が増えることを知ってもらう</li> <li>車いす側の改善でもできる</li> </ul>	
3. 製造業者・供給者	<b>【利用目標（シナリオ）】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>飛行機や車、電車に乗車時のハードルを下げるシステム</li> <li>車いすユーザーのメディア露出</li> <li>社会の目</li> </ul>	
	<b>【技術的課題】</b>	
	<b>【制度的課題】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>車いすの事故防止や技術やルールを体得できる練習の場を作る</li> <li>電動車椅子の免許制導入と 8km/h も利用できる特例資格を加える</li> <li>車いすの選択は、医療モデルから社会モデルに（医師が支給判定するのではなく、個人の希望を中心に）</li> </ul>	
	<b>【社会環境に関する課題】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>段差や電柱などの障害物がない環境。</li> <li>車椅子と併歩（走）できる道幅等の環境</li> <li>電気自動車と併用できる充電所の設置</li> <li>経済目的だけでなく、その人の存在を生かす働きの場の構築</li> </ul>	
4. 研究開発者	<b>【利用目標（シナリオ）】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>広告媒体としての車いすが街中を走っている</li> <li>健常者が利便性を感じ、乗りたくなるような車椅子（法規制も含め対応）</li> </ul>	
	<b>【技術的課題】</b>	
	<b>【制度的課題】</b>	
	<b>【社会環境に関する課題】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>公共交通機関の段差・溝解消、車道・歩道の段差解消、階段の解消</li> <li>さまざまなタイプの車いすが走れるように道路が整備されている</li> <li>エスカレーター乗降マナーの標準化</li> <li>社会インフラの整備に資金と時間がかかる</li> </ul>	
④その他（シナリオの問題点、シナリオの不明確な点等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> </ul>	

シナリオ番号	③	
対応グループ	利用者、製造業者・供給者	
方向性のポイント（未来軸の内容・組合せ）	利用者の個別のニーズ・目的に適合した車いすを選択でき、他者とのコミュニケーションを促進する	
解説（事務局作成）		
①目標を実現する上で課題となる現状の問題点	・	
②目標を実現する上で予想される障害や困難	・	
グループ	シナリオの内容、イメージ、期待等	③左記に説明を追加、左記に追加したい事項、左記を実現する方法・手段、実現する上での課題等 ↓
1. 利用者	【利用目標（シナリオ）】 ・車イスのオプションを増やす ・より細かな成長対応	・
	【技術的課題】 ・車いすの高機能化 ・一定の段差解消機能 ・座面昇降機能（相手との視線の一致） ・外出先の机への車いす適応力（テーブル下の高さ、テーブル足の形状） ・コミュニケーションツール等の充実 ・電子機器（PC やタブレット）を長時間利用できるように電動車いすのバッテリーから電気を使えるようなオプションを用意する	
	【制度的課題】	
	【社会環境に関する課題】 ・不慣れた店員さんも操作可能に 入口段差で持上／ウィリー、狭い店内でテーブル案内	
3. 製造業者・供給者	【利用目標（シナリオ）】	
	【技術的課題】	
	【制度的課題】	
	【社会環境に関する課題】 ・障がい者に違和感なく、共生できるよう小さい頃からインクルージング教育 ・地域コミュニティの形成	
④その他（シナリオの問題点、シナリオの不明確な点等）	・	

方向性のポイント（未来軸の内容・組合せ）	利用者の経済的負担を軽減し、利用者の社会参加を促進する	
解説（事務局作成）		
①目標を実現する上で課題となる現状の問題点	・	
②目標を実現する上で予想される障害や困難	・	
グループ	シナリオの内容、イメージ、期待等	③左記に説明を追加、左記に追加したい事項、左記を実現する方法・手段、実現する上での課題等 ↓
1. 利用者	【利用目標（シナリオ）】	・
	【技術的課題】 ・一台の車椅子で、一定範囲での座幅・座高等の調整可能（買換え不要な車椅子）	
	【制度的課題】 ・福祉制度の充実 ・行政の補助制度の充実 ・支給金額の上限を設けず、QOLを向上させる機能は積極的に支給する ・複数支給可能な補助制度 本格／簡易電動車いす、外出用／室内用車いす ・ニーズに合った車いすを少ない費用負担で利用できる ・リース制度の充実	
	【社会環境に関する課題】	
4. 研究開発者	【利用目標（シナリオ）】	
	【技術的課題】 ・複数PF（プラットフォーム）の大量生産とアプリ対応インターフェイスの標準化	
	【制度的課題】 ・安全性確保、選定、適合、試用、トレーニング等がワンストップでできる民間運営センターが設立される ・購入やレンタルに関する補助制度が改善され、社会的弱者の負担が軽減される ・傷害保険の選択肢として補助金を受給できるようにする ・走った距離や立ち寄った場所に応じて補助金が出るしくみ エコと社会参加と経済的負担軽減	
	【社会環境に関する課題】	
④その他（シナリオの問題点、シナリオの不明確な点等）	・	

シナリオ番号	④
対応グループ	利用者、研究開発者

シナリオ番号	⑤	
対応グループ	利用者、研究開発者	
方向性のポイント(未来軸の内容・組合せ)	利用者の経済的負担を軽減し、車いすが社会にとけ込む(他者とのコミュニケーションを促進する)	
解説(事務局作成)		
①目標を実現する上で課題となる現状の問題点	・	
②目標を実現する上で予想される障害や困難	・	
グループ	シナリオの内容、イメージ、期待等	③左記に説明を追加、左記に追加したい事項、左記を実現する方法・手段、実現する上での課題等
1. 利用者	【利用目標 (シナリオ)】	・
	【技術的課題】 ・ 一台の車椅子で、一定範囲での座幅・座高等の調整可能 (買換え不要な車椅子) ・ 素材・色・形等専門のデザイナーの配置 (開発時点)	
	【制度的課題】 ・ 車いす屋さんとの連携 連絡先一覧表の作成、近くの掛り付けを見つける 使い難さを相談、工夫で解決 ・ 行政の対応 ・ 行政の補助制度の充実 ・ リース制度の充実 ・ 安価に利用可能な交通環境 バスのノンステップ全対応、 タクシーのスロープ対応、レンタカーの福祉車導入 ・ すべてのタクシーが車いすで利用できるようにする (福祉タクシーは高すぎます)	
	【社会環境に関する課題】	
4. 研究開発者	【利用目標 (シナリオ)】	
	【技術的課題】	
	【制度的課題】 ・ 車いす利用者に広告主から宣伝費が支払われる仕組みが構築されている ・ 電動車いす用の電池が標準化され、点在するステーションにて無償交換可能になる ・ 施設や公共交通機関の利用頻度に応じ、補助金受給	
	【社会環境に関する課題】	
④その他(シナリオの問題点、シナリオの不明確な点等)	・	

シナリオ番号	⑥	
対応グループ	処方者、製造業者・供給者	
方向性のポイント(未来軸の内容・組合せ)	使いたくなる車いす・プレゼントしたくなる車いすで、利用者の社会参加を促進する	
解説(事務局作成)		
①目標を実現する上で課題となる現状の問題点	・	
②目標を実現する上で予想される障害や困難	・	
グループ	シナリオの内容、イメージ、期待等	③左記に説明を追加、左記に追加したい事項、左記を実現する方法・手段、実現する上での課題等
2. 処方者	【利用目標 (シナリオ)】 ・ 車椅子利用者が社会参加していること ・ いろいろな機種・デザインの車椅子が出回る 最近の杖のように 市場規模が大きくなると業者は機種やデザインを増やさないだろう ・ デザインの改善 ・ サイズだけでなく素材や色を選べること ・ 眼鏡のような存在、おしゃれに考えられると良い ・ 価格が安く、メンテナンスがしやすいこと ・ 車いすが自転車と同じ感覚で入手でき、メンテナンスできること	・
	【技術的課題】 ・ 機能・使い勝手の向上 ・ デザイナーズブランドがあること	
	【制度的課題】 ・ 車椅子作製時の専門職の関わり	
	【社会環境に関する課題】 ・ 市中に車椅子の展示スペース	
	【問題点】 ・ 使いたくなるのは誰か、その要素はなにか ・ プレゼントとは健常者へのプレゼントもありうるのか ・ 車いすを使うのは障害者だけか ・ 地味にとけ込む配慮をするか、派手に主張するかは本人の価値観があるので考え次第 ・ 本来使用したくないもの、マイナスをプラスに変えるには利用者の理解を得る必要がある	
	【利用目標 (シナリオ)】 ・ 自分でパーツをカスタマイズできる車椅子 ・ 高級ブランド製の車椅子	
	【技術的課題】 ・ 屋内外走行機能、自操介助機能をすべて揃えた車椅子 ・ 超軽量の車椅子 ・ デザイン性の高いもの	
3. 製造業者・供給者		

	<b>【制度的課題】</b> ・マジックハンド付きの車いすが支給の対象となる。	
	<b>【社会環境に関する課題】</b> ・車いすCM	
④その他(シナリオの問題点、シナリオの不明確な点等)	・	

**質問05** 上記以外のシナリオを提案したい場合は、以下にお書きください。

**質問06** グループのシナリオについて、あなたが望ましいと思う順番、実現性が高いと思う順番、もっと検討してみたいと思う順番をお答えください。

（1位から2位、3位…6位と数字を記入してください）

シナリオ	望ましいと思う順番	実現性が高いと思う順番	ワークショップで検討してみたいと思う順番
①			
②			
③			
④			
⑤			
⑥			
(追加)			

**質問07**

その他ご意見・ご希望・ご感想があれば、どのようなことでもかまいませんので、お知らせください。

ご回答は、[ml-rikatsuyou@rehab.go.jp](mailto:ml-rikatsuyou@rehab.go.jp) 9月17日頃までにお送りください。

【この質問の結果を整理して、10月のワークショップの前にお送りします。ワークショップでは、それをもとにしてシナリオ、ロードマップの素案を検討します】

「車いすの未来を考える」ワークショップ 第3回準備アンケートの結果整理

2012.10.03

シナリオ番号	シナリオグループ	シナリオの内容	シナリオの目的	シナリオの概要	シナリオの課題	シナリオの期待	シナリオの留意点
1	利用者	利用者の個別のニーズ・目的に適合した車いすを選択でき、利用者の社会参加が促進される	「車いすの未来を考える」ワークショップ 第3回準備アンケートの結果整理	利用者の個別のニーズ・目的に適合した車いすを選択でき、利用者の社会参加が促進される	利用者の個別のニーズ・目的に適合した車いすを選択でき、利用者の社会参加が促進される	利用者の個別のニーズ・目的に適合した車いすを選択でき、利用者の社会参加が促進される	利用者の個別のニーズ・目的に適合した車いすを選択でき、利用者の社会参加が促進される
2	製作者・供給者	「車いすの未来を考える」ワークショップ 第3回準備アンケートの結果整理	「車いすの未来を考える」ワークショップ 第3回準備アンケートの結果整理	「車いすの未来を考える」ワークショップ 第3回準備アンケートの結果整理	「車いすの未来を考える」ワークショップ 第3回準備アンケートの結果整理	「車いすの未来を考える」ワークショップ 第3回準備アンケートの結果整理	「車いすの未来を考える」ワークショップ 第3回準備アンケートの結果整理
3	研究開発者	「車いすの未来を考える」ワークショップ 第3回準備アンケートの結果整理	「車いすの未来を考える」ワークショップ 第3回準備アンケートの結果整理	「車いすの未来を考える」ワークショップ 第3回準備アンケートの結果整理	「車いすの未来を考える」ワークショップ 第3回準備アンケートの結果整理	「車いすの未来を考える」ワークショップ 第3回準備アンケートの結果整理	「車いすの未来を考える」ワークショップ 第3回準備アンケートの結果整理

<p>【技術的課題】 ・低常歩歩みの移動速度や小回りの効率が向上する ・公共交通安全機関の乗降段差、溝解消対応車椅子 ・エレベーター内で立ち乗りタイプに形状（場所）取らず、自給自足車椅子と同等 ・車椅子とIT機能一体化（手放せない乗り物）</p>	<p>・IT技術を取り入れるには、安全性への配慮を確保する必要がある ・公共交通機関利用のためマニュアル等が作成されると良い</p>	<p>・座車箱型の車椅子で段差や溝、変形に対応 ・電動車椅子と手動車椅子で分けて記述すべきである ・下り段差や階段を検知・警告・回避な安全技術 ・人や障害物にぶつからない安全技術 ・手動車椅子に背臥できる機能、必要な機能について整理して実現性を探る ・電動車椅子などの充電場所を公共施設に作る</p>	<p>・適合者や利用者の車椅子教育システムの構築、遊び方・使い方教育システム ・詳細センサーも上記フットセンサー内に設置。課題は、管理官庁の縦割り行政。 ・電動車椅子のサイズ、速度等に関する規制緩和 ・社会モラルの徹底 ・社会環境に適合する車椅子の考え方や教育システムの構築 ・電動車椅子と手動車椅子は、分けて考える方がよい。</p>
<p>【制度的課題】 ・安全性が確保された車いすだけが利用されている</p>			
<p>【社会環境に関する課題】</p>			
<p>④その他(シナリオの問題点、シナリオの不明確な点等)</p>		<p>・「社会参加」という具体的なイメージ、概念の具体化をしておく必要があると思います。それの方が思う「社会参加」その実現は立派に思いますが、具体的な少しづつ違いがあるように感じます。 ・制度上の問題にどの程度踏み込んで意見するのか。 ・介護者のニーズをどうするか。</p>	

シナリオ番号	②	③
別添グループ 方向性の示す(未乗乗の内容・問合せ)	利用者の個別のニーズ・目的に適合した車いすを選択でき、車いすが社会に受け入れられる。利用者の社会的参加が促進される	共通(利用者、地方者、製造業者・供給者、研究開発者) 利用者の個別のニーズ・目的に適合した車いすを選択でき、利用者の社会的参加が促進される
解決(事務局作成)	すべてのグループに共通のシナリオです。よって利用グループから多くの回答が寄せられました。 ・「個別のニーズ・目的に適合した車いすを選択できること以上に、「社会の側」の車いすを要する条件が整備されること」に注目した回答が多いようです。 ・車いす自体への期待も高い、社会的環境への期待も車いすで利用する道路や公共交通機関の技術的課題、制度的課題に関心が集まりました。	研究開発者グループ
①目標を実現する上で課題となる現状の問題点	<p>・社会的環境の必要性を踏まえるのが大変で、メーカーが必要なの、障害者もなかなか言わない ・(例)東武東上線の踏切で、車いすの道路が斜めに交差するため、踏切を渡る時に車いすのタイヤがレール間に落ちそう。 ・段差を乗り越えたい利用者が多いが、誰も声をあげていないと思う。</p> <p>・助成制度利用可能な範囲が狭い ・車いすで参加できる場所が少ない ・ユニバーサルなインフラを整備するためにかかる費用が高額なこと ・事業者抜きにインフラ整備を進めること</p>	<p>・地方システムの地域間格差 ・個別ニーズは誰がアセスメントするのか、個別ニーズは利用者本人が自分で出せる課題であるのか ・利用者の知識が十分であると思えるが、ユーザー側のルールやメーカーの知識不足や遠征技術の未熟も大きく影響している認識が強い ・個別ニーズ・目的を正確に整理できる方が少ない</p> <p>・社会的環境整備 ・企業の手いすユーザーに対する環境整備とコストの問題 ・電動車いす事故等の原因をメーカー側の課題に重点を置いていると思えるが、ユーザー側のルールやメーカーの知識不足や遠征技術の未熟も大きく影響している認識が強い ・具体的な対応をどうしているか、具体的な対応をどうしているか</p> <p>・交通機関等の問題は正方法が、力や圧力に頼るところが少し多かったように、様々な決定が、事情があるのだから、どうしても一部の意見で決定していることに、次なる問題や不安を長引かせていることが多い。関係者の意見交換会のようなものが、必要</p> <p>・様々な車椅子と環境、公共交通機関などを準備し、それらを使って、現地的な社会参加体験システムがない ・車いすが快適に走行可能にするために必要なインフラ整備にコストがかかる ・「デザイン性」と「障害性」による使い勝手が相対することが多い。</p>
②目標を実現する上で予想される障害や困難	<p>・社会的環境の整備・改善にお金と時間がかかる。(例)東武東上線の踏切について、訴えは社会のためになるが、改善されるには自分自身も利用していないと思う。</p> <p>・車いすに対する偏見</p>	<p>・情報格差 ・企業側の対応格差 ・個別ニーズにあわせてということ ・オーダーメイドということなのか ・オーダーメイドの経済的な負担はどのように解決するか ・利用者が選択することができる知識等があるのか ・車整備は簡単ではない</p> <p>・社会の環境整備 ・法整備</p> <p>・インフラ整備にコスト ・文科省や厚生労働省、教育委員会の設備</p> <p>・車いすユーザー数が飛躍的に増えたと、そのためのインフラ整備にコストをかける動きが本格化しない。</p>
グループ	シナリオの背景、イメージ、期待等	③表記 ・研究開発者グループ ・利用者側の積極性
1.利用者	<p>【利用目標(シナリオ)】 ・車いすが買値が安い社会 ・車いすが注目される社会 ・車いすが注目されるような車椅子(デザイン・機能性)</p> <p>【技術的課題】 ・車いすの高機能化 ・社会環境整備は困難、それをカバーできる機能 ・一定のスピードの出せる機能(速足歩行機能) ・障害物の避妊機能と転倒防止機能</p> <p>【制度的課題】 ・建設前・後の審査制度(買ついたらどこを想々に訴える方法は手遅れになるため、建設前・後に車いす目録のチェック制度) ・知事や市長の制度 ・社会環境改善の知事や工夫の事例を調査し、公開する制度 ・介助者探しの喚起(社会に受け渡すため、外出の介助者を探していることをACや車椅子など公共機関のテレビCMで紹介)</p> <p>【社会環境に関する課題】 ・社会環境の改善スピード(直ぐ教育機関等公共機関のより進んだバリアフリー化 ・複数の車いすを想定した環境(トイレ、テーブル、給水機) ・車いすが入れられる多目的スペースをあらゆる場所に用意する(電車の車いすスペースのよう) ・車いすが走りやすい道路の整備 ・車いす利用可能な歩道環境(前輪も安全な路面の凹凸、直進可能な排水溝の角度、身なり・履き足表示) ・利用しやすい施設や公共交通機関の整備 ・電動スロープ付き電車(韓国のようなスムーズな乗り降り)</p>	<p>・研究開発者グループ ・利用者側の積極性</p> <p>・車椅子にデザインカラーを施し、ユーザーカスタマイズ可能にする ・車椅子が必要なのは必ずしも必要ではないが、介助者の教育システムが必要 ・安全の観点から手任り場合に、「こを踏んでください」の警告表示は必須 ・社会環境整備こそ優先的に進める事項、その整備範囲を徐々に拡大していく ・電動車椅子と手動車椅子を分けて記述する</p> <p>・補助制度対応の地域格差</p> <p>・義務教育の中で、車椅子の基礎から使い方のカリキュラムを入れる。</p>
2.地方者	<p>【利用目標(シナリオ)】 ・社会参加の場の増加 ・利用者の積極的参加 ・車いすという概念へのイメージを誰もが「道具」と認識すること</p> <p>【技術的課題】</p> <p>【制度的課題】</p>	<p>・研究開発者グループ ・利用者側の積極性</p> <p>・車いすが買値が安い社会 ・車いすが注目される社会 ・車いすが注目されるような車椅子(デザイン・機能性)</p> <p>・車いすを身体の一部という認識 ・車いすを利用する本人、親等の意識を育てていくことも必要 ・積極的に社会参加できる環境作りをどのようにするか</p> <p>・社会環境に適合する車椅子の地方のための教育システム ・学校や職場、公共交通機関の環境に適合する車椅子地方のための教育と教育システムの構築</p> <p>・適合技術、使用技術、改善技術、教育技術</p> <p>・適合時の費用計上システム、使用技術を伝達するときの費用、改善や改造するときの費用、使い方などを伝達するときの費用などを計上できるシステムに適合教育システムが必要</p>

	<p>【社会環境に関する課題】 ・物理的バリアの解消・軽減 ・社会環境整備には、ソフト(人)ハード(建)両面の対応が必要 ・車いすを利用すればできる事が増えることを知ってもらう ・車いす側の改善もできる</p>	<p>・障害や、車椅子利用に対する理解を深める場を作ること、それを教育の中に位置づけること ・公共機関にはかっこいい車いすをねごと ・社会環境整備、個人の理解および自覚を促す手段があると良い</p>	<p>・社会環境に適する車椅子の処方のための教育と教育システム ・学校や職場、公共交通機関の環境に適する車椅子処方のための教育と教育システムの構築</p>
3 製造業者・供給	<p>【利用目標(シナリオ)】 ・飛行機も車、電車に乗車時のハードルを下げるシステム ・車いすユーザーのメディア露出 ・社会の目</p> <p>【技術的課題】</p> <p>【制度的課題】 ・車いすの事故防止や技術やルールを体得できる講習の場を作る ・電動車椅子の免許制導入と8km/hも利用できる特別資格を加える ・車いすの選択は、医療モデルから社会モデルに(医師が支給決定するのでなく、個人の希望を中心に)</p>	<p>・乗用車車時の規制統一 ・飛行機も車、鉄道各社明確な基準を公表</p> <p>・再利用することのできる制度があると良い ・個人の希望を重視することは大前提であるが、真の必要性をどのよう理解できるか課題</p> <p>・練習は1ハセンター? ・免許制 ・選択制の拡大 ・気象条件が音を生み出すには、音が制約を与えず、守るべき人と、押すべき人を分けたきめ細かい制度にする。現在一歩制(人)に基準を合わせ、可能ある人の元気も奪っていないか。</p>	<p>・電動車椅子と手動車椅子で分けて設計すべきである。 ・車椅子の免許制を考える前に自転車免許制を導入しないと危険で安全化して移動できない。 ・自転車は免許制よりより学校、家庭内教育とモラルの問題、道徳性で育つべき人。内教育とモラルの問題、道徳性で育つべき人。内教育とモラルの問題、道徳性で育つべき人。内教育とモラルの問題、道徳性で育つべき人。</p> <p>・製造業者・供給者への車椅子教育システムの構築、選び方・使い方を教育システム ・電動車いすの免許制度に合わせて認知療育と歩む自転車も含めて再整備する。</p>
4 研究開発者	<p>【利用目標(シナリオ)】 ・広告媒体としての車いすが街を走っている ・消費者が利便性を感じ、乗りたくくなるような車椅子(法規制も含め対応)</p> <p>【技術的課題】</p> <p>【制度的課題】</p> <p>【社会環境に関する課題】 ・公共交通機関の段差・溝解消、車道・歩道の段差解消、階段の解消 ・さまざまなサイズの車いすが走れるように道路が整備されている ・エスカーラ乗降マナーの標準化 ・社会インフラの整備に資金と時間がかかる</p>	<p>・交通法等の法整備が必要 ・都市計画における基準の整備 ・コンビニで電気を販売できる法整備</p>	<p>・社会環境に適する車椅子の考え方や教育システムの構築</p>
④その他(シナリオの問題点、シナリオの不明確な点等)	<p>・社会環境の発想転換、障害者に対応することは、幼児、高齢者を含む万人にとって優しく便利であることと実現できる教育体験など、発想転換する切り組みが必要と考える。 ・事務局の役割にあるように社会環境に関する企画が多いようなので、方向性をそこに絞っていいのではないだろうか。</p>	<p>①のシナリオとかなり共通すると思います。</p>	

シナリオ番号	③			
対応グループ	利用者、製造業者、供給者			
方向性のポイント(糸軸軸の内容・組合せ)	利用者の個別ニーズ・目的に適合した車いすを選択でき、他者とコミュニケーションを促進する			
解説(事務局作成)	<p>・利用者、製造業者・供給者グループに共通するシナリオです。 ・利用者は、車いすを使いやすくするために具体的な要望を挙げているため、座面の高さを調節して、相手と視線を一致させたり、外出先で同じテーブルにつけることを実現しています。また、コミュニケーションツールや利用環境が充実することにも期待しています。 ・製造業者・供給者は、インクルージョン教育や地域コミュニティが形成されることを通じて、障害者と共生する意識を育むことの必要性を指摘しています。</p>			
①目標を実現する上で課題となる現状の問題点	<p>・利用グループ ・社会環境はなかなか改善されないため、同じテーブルで話す場合は希望している車いすを改善するしかない。 ・車いすの選択肢が少ない ・障害者を特別視する社会の意識 ・養護学校、特例学校など障害者を隔離する現社会のシステム</p>	<p>・処方者グループ ・種器具としては必要最低限の機能のものしか利用することができない。 ・多様な環境に対応可能な技術がない</p>	<p>・製造・供給者グループ ・車いすにすべての要求を求めるとコストに繋がります。 ・共生する意識改革がなされていない。 ・現状での日本文化(障害性入との格差性)</p>	<p>・研究開発者グループ ・車椅子規格(特に高背制限があるため、高さや可変にできない)があるため、目標を達成する上で利用者の身体機能や生活方法が個々で異なるため、真ニーズを得ることが難しい。 ・目標の問題は、車椅子利用者周囲の双方の問題であるから、車椅子の機能として必要な場合とそうでない場合がある。これは電動車椅子での解決は可能であるが、手動車椅子ではなかなか難しい。 ・コミュニケーションは人間同士のことであり、したがって、車椅子で解決できることは、座の高さ調節や起立機能を加えることで目標の高さを要することやコミュニケーションをとるための目的の場所へ行くとである。 ・車椅子を使って楽しく、目標をもって生活する社会でのコミュニケーションは、良いものになっている。したがって、車椅子を愛用し入れる障害受容や生活への意識を持ってもらえるように車椅子の選択や適合が大切。</p>
②目標を実現する上で予想される障害や困難	<p>・コミュニケーションの場を求め行動する人が必要とする、介助者や支援の社会整備はなかなか困難と予想される。 ・障害者に対する偏見</p>	<p>・多機能とすることによる重量が増えること、サイズが大きくなる、価格が高くなることといったデメリットがあるかもしれない。 ・制度上の問題 ・周囲の理解を得る方法が確立されていない</p>	<p>・車いすにすべての要求を求めるとコストに繋がります。 ・共生する意識改革がなされていない。 ・現状での日本文化(障害性入との格差性)</p>	
グループ	シナリオの内容、イメージ、期待等	③左記に説明を追加、左記に追加したい事項、左記を実現する方法・手段、実現する上での課題等		
1 利用者	<p>【利用目標(シナリオ)】 ・車いすのオプションを増やす ・より格納可能な成長対応</p> <p>【技術的課題】 ・車いすの軽量化 ・一定の段差解消機能 ・座面昇降機能(相手との視線の一致) ・外装の良への車いすの対応力(テーブル下の高さ、テーブル足の形状) ・コミュニケーションツールの充実 ・電子機器(PCやタブレット)を長時間利用で疲れないように電動いすのバッテリーから電気を使えるようなオプションを用意する</p> <p>【制度的課題】 ・不慣れた店員さんも操作可能に ・入口段差で待たず、アウェイ、狭い店内テーブル案内</p>	<p>・軽量・コンパクト化(オプションを切り取って、重く大きなものがらんで、並行して、軽量・コンパクト化を検討) ・車いすの理解を深める</p> <p>・製作時間の短縮</p>	<p>・ここでも書かれている課題は、電動車椅子への整備がほとんどである。 ・手動車椅子への要望と混在しない様、まとめることが大切。</p>	
3 製造業者・供給	<p>【利用目標(シナリオ)】</p> <p>【技術的課題】</p> <p>【制度的課題】</p> <p>【社会環境に関する課題】 ・障がい者に違和感なく、共生できるよう小さい頃からインクルージョン教育 ・地域コミュニティの形成</p>	<p>・義務教育でボランティア活動を必修科目とする</p> <p>・中学・高校でも居住地域交流を積極的に行う。</p>		
④その他(シナリオの問題点、シナリオの不明確な点等)		<p>これも社会参加と関係するのではないだろうか。</p>	<p>具体的なハードの前に、それをしていこうとやるべきだと思う。思いが当たったうえで初めて具現化することをお願いします。その最初の「思い、願い」が生み出される環境として小さい頃から、障がい者と共生する環境や、インクルージョン教育が必要と</p>	



シナリオ番号	(4)				
対応グループ	利用者、研究開発者				
方向性のポイント(未来絵の内容・組合せ)	利用者の経済的負担を軽減し、利用者の社会参加を促進する				
解説(事務局作成)	・利用者と研究開発者が共通して描いたシナリオです。経済的負担を軽減するための制度の改善を望む回答が多く寄せられました。 ・利用者は、QOLを向上させるための機能に対し経済的な支援が受けられることを望んでいます。また、生活場面(室内・外出時)に応じて、複数の車いすの受け入れられることを期待しています。 ・研究開発者からは、技術開発を通して、車いすの価格を下げるという提案がありました。制度面では、傷害保険を活用したり、一括して車いす利用者のニーズに応じる民間の運営センターを設立して、利用者の経済負担を軽減するという提案がありました。 ・走った距離などに応じて補助金が出るしくみを通じて、利用者の外出意欲を促す提案もありました。				
①目標を実現する上で課題となる現状の問題点	利用者グループ	製法・供給者グループ	研究開発者グループ		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>車いすは1台しか作れない。</li> <li>助成内での購入で我慢してしまいます。</li> <li>行政による厳しい支給金額</li> <li>助成内での購入で我慢してしまふこと</li> <li>障害者自身の収入が低いこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>補償員制度ではQOLの向上目的に対する交付はできない</li> <li>多機能+軽量などの相反するニーズに対する製品開発力</li> <li>複数台の給付に対する制限(補償員交付、介護保険制度の問題)</li> <li>複数台生産する訳ではないので安価にできない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者の身体機能で求める車椅子の種類や機能が異なる、重度の方では1台の電動車いすや手動車いすに多くの機能を求める傾向にある。手動と電動車いすを分けて調査し記述して行くことが欠かなくてはならない</li> <li>現状の利用者や将来の利用者への車いすの基礎や使い方、社会参加方法などのことを伝える教育カリキュラムや講習カリキュラムの制作が必要</li> <li>様々な車椅子と環境、公共交通機関などを準備し、それらを使って、現実的な社会参加体験システムを構築しないと適合出来ない</li> <li>車椅子を手入するまでの流れや適合システムを明確にすること。今はその流れが知られていない</li> <li>車椅子の選定がウェアマネージャーと自治体財政事情に依存している</li> <li>介護保険適用になる対象者のハードルが高い</li> </ul>		
②目標を実現する上で予想される障害や困難	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人生活環境が異なる上に、障害者の成長に伴い生活環境も変わるため、経費が掛かる可能性がある</li> <li>行政の理解と予算の不足</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ADLを超えて、どこまで福祉制度で認めるのか</li> <li>利用者の経済的負担を軽減するためには税金等他の面で経済負担を補う必要がある</li> <li>車いすの機能や素材などの質的低下が予想される</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現行制度</li> <li>高い汎用性を有した車いす開発に比例した購入金額の高騰(車庫設置費の壁)</li> <li>複数台を給付可とした場合、使用目的の範囲設定(趣味・賞状品の給付など)</li> </ul>		
グループ	シナリオの内容、イメージ、期待等				
1.利用者	③左記に説明を追加、左記に追加したい事項、左記を実現する方法・手段、実現する上で課題等				
【利用目標(シナリオ)】					
【技術的課題】	<ul style="list-style-type: none"> <li>一台の車椅子で、一定範囲での座幅・座高等の調整可能(買換え不要な車椅子)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>量産できない車いすの製作時間の短縮</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多機能を持つと複雑になり操作上の問題が発生する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>手動と電動という種類</li> <li>手動と電動で分けて記載する方がよい</li> </ul>	
【制度的課題】	<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉制度の充実</li> <li>行政の補助制度の充実</li> <li>支給金額の上限を上げず、QOLを向上させる機能は積極的に支給する</li> <li>複数支給可能な補助制度</li> <li>本格/簡易電動車いす、外出用/室内用車いす</li> <li>ニーズに合った車いすを少ない費用負担で利用できる</li> <li>リース制度の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>行政に期待</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>財源の確保</li> <li>リサイクル制度を確立する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>車椅子を使う心や勇氣・希望などのハードの育成をする教育方法</li> </ul>	
【社会環境に関する課題】					
4.研究開発者	【利用目標(シナリオ)】				
【技術的課題】	<ul style="list-style-type: none"> <li>複数PC(プラットフォーム)の大量生産とアプリ対応/ソフトウェアの標準化</li> </ul>				
【制度的課題】	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全性確保、選定、適合、試用、トレーニング等がワンストップでできる民間運営センターが設立される</li> <li>購入やレンタルに関する補助制度が改善され、社会的弱者の負担が軽減される</li> <li>傷害保険の選択肢として補助金を受け取れるようにする</li> <li>走った距離や立ち寄った場所に応じて補助金が出るしくみ</li> <li>エコと社会参加と経済的負担軽減</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>専門家の育成が必要</li> </ul>		
【社会環境に関する課題】					
④その他(シナリオの問題点、シナリオの不明確な点等)			<ul style="list-style-type: none"> <li>QOLを取り上げるのは難しい面がありますが、避けることもできないのでしょうか</li> </ul>		

シナリオ番号	(5)				
対応グループ	利用者、研究開発者				
方向性のポイント(未来絵の内容・組合せ)	利用者の経済的負担を軽減し、車いすが社会に円滑に(他者とコミュニケーションを促進する)				
解説(事務局作成)	・利用者と研究開発者グループが共通して描いたシナリオです。どちらのグループからも、車いすでストレスなく外出できるための具体的な提案ができました。 ・利用からは、支援に利用可能な交通環境が整備されることへの要望が出ています。 ・買い換えの経済負担を減らすために、技術面では、座幅・座高などの調整が可能となることや、制度面では、リース制度が充実することを期待しています。 ・車いすが利用しやすい社会環境という面では、車いすの供給事業者とのより緊密な連携体制が整えられることの重要性が指摘されています。 ・研究開発者からは、車いすを広告媒体とするアイデアや、電動車いす用の電池が、点在する充電ステーションで無償交換できるよう仕組みが提案されました。				
①目標を実現する上で課題となる現状の問題点	利用者グループ	製法・供給者グループ	研究開発者グループ		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の連携不足</li> <li>公共交通機関では未だバリアフリー化が進んでいないところが多い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題があるからその上記録簿であり、提案であると思えます。</li> <li>公共交通機関の整備が充実していない</li> <li>運転手など社会での利用を促進する立場の人の理解を促す仕組みがない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現行制度</li> <li>小学校や中学校などの教育カリキュラム(車椅子の体験を入れて、車椅子のことをどこまで正しく理解させること、車椅子使用が社会に受け入れやすい環境ができる)が、その教育システムがない</li> <li>現状の利用者や将来の利用者への車いすの基礎や使い方、社会参加方法などのことを伝える教育カリキュラムや講習カリキュラムがない</li> <li>車椅子を適合させることが、経済的な負担を軽減することになるので、様々な車椅子と環境、公共交通機関などを準備し、それらを使って、現実的な社会参加体験システムで、適合条件を調査したいがそれができない</li> <li>車いすが快適に走行可能にするために必要なインフラ整備にコストがかかる</li> </ul>		
②目標を実現する上で予想される障害や困難	<ul style="list-style-type: none"> <li>公共交通機関のバリアフリー化には時間がかかる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>モジュラータイプの車椅子のさらなる普及は可能性があると思えますが、社会環境の整備はなかなか大変と考えます。</li> <li>車いすに貼れる機会(経験)が少ないのが多い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現行制度</li> <li>文科省や厚生労働省、教育委員会の協賛</li> <li>車椅子の製造・販売業者の協賛</li> <li>車椅子の普及を促すためのインフラ整備にコストがかかる</li> </ul>		
グループ	シナリオの内容、イメージ、期待等				
1.利用者	③左記に説明を追加、左記に追加したい事項、左記を実現する方法・手段、実現する上で課題等				
【利用目標(シナリオ)】					
【技術的課題】	<ul style="list-style-type: none"> <li>一台の車椅子で、一定範囲での座幅・座高等の調整可能(買換え不要な車椅子)</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>助成範囲を広げる</li> </ul>
【制度的課題】	<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉制度の充実</li> <li>行政の補助制度の充実</li> <li>支給金額の上限を上げず、QOLを向上させる機能は積極的に支給する</li> <li>複数支給可能な補助制度</li> <li>本格/簡易電動車いす、外出用/室内用車いす</li> <li>ニーズに合った車いすを少ない費用負担で利用できる</li> <li>リース制度の充実</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>車椅子の基礎、遊び方・使い方、社会環境の利用の仕方などの教育カリキュラムや講習カリキュラムの制作が必要</li> <li>様々な車椅子と環境、公共交通機関などを準備し、それらを使って、現実的な社会参加体験システムを構築しないと適合出来ない</li> <li>車椅子を手入するまでの流れや適合システムを明確にすること。今はその流れが知られていない</li> <li>車椅子の選定がウェアマネージャーと自治体財政事情に依存している</li> <li>介護保険適用になる対象者のハードルが高い</li> </ul>
【社会環境に関する課題】					
4.研究開発者	【利用目標(シナリオ)】				
【技術的課題】	<ul style="list-style-type: none"> <li>複数PC(プラットフォーム)の大量生産とアプリ対応/ソフトウェアの標準化</li> </ul>				
【制度的課題】	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全性確保、選定、適合、試用、トレーニング等がワンストップでできる民間運営センターが設立される</li> <li>購入やレンタルに関する補助制度が改善され、社会的弱者の負担が軽減される</li> <li>傷害保険の選択肢として補助金を受け取れるようにする</li> <li>走った距離や立ち寄った場所に応じて補助金が出るしくみ</li> <li>エコと社会参加と経済的負担軽減</li> </ul>				
【社会環境に関する課題】					
④その他(シナリオの問題点、シナリオの不明確な点等)			<ul style="list-style-type: none"> <li>QOLを取り上げるのは難しい面がありますが、避けることもできないのでしょうか</li> </ul>		

シナリオ発想 開発グループ	B)			
方向性(未乗車の内容・構造)	地方者・製造業者・供給者			
解説 (事務局作成)	「地方者・製造業者・供給者」が共通に描いたシナリオです。本来使いたくないというマイナスの意識をポジティブな意図に変えるために、利用者の理解が必要であることが指摘されています。デザイン性が向上し、選択肢が増えること、機能・使いやすさが向上し、メンテナンスも容易となる、利用の際の心理的ハードルを下げるなどが期待されています。機種やデザインの選択肢を増やすためには、市場規模が必要であることも指摘されています。車いすを使うことへの抵抗が軽減されることも期待されています。			
①目標を実現する上で課題となる現状の問題点	利用者グループ ・デザインや色が選択肢できる車いすは、限られている。	地方者グループ ・かつこしいこと、技術的に優れたことはイコールなのか ・利用者の理解力の低下、自己管理力の低下 ・メンテナンス技術の向上には、本人も含めて指導が必要	製造・供給者グループ ・車いすに対するイメージ ・メディアを通じた情報提供が少ない	研究開発者グループ ・デザインや機種の良い車椅子を見つけるための試す場所などの環境整備が必要 ・身体障害者を取り越えて行く支援方法やプレゼンテーションの方法が必要 ・デザイン性と安全性、コンパクト性がトレードオフになる可能性が高い。
②目標を実現する上で予想される障害や困難	・重度の障害者の車いすは、手作りなのでなかなか難しい。	・制度上の課題 ・大企業ではないので、デザイン性の上や、選択肢を増やすのは困難 ・時間と資金が不足している	・車いすのイメージアップのための施策 ・社会参加の大きい要素として、就労や日本の住宅や職場環境で使いやすい、電動車いすがない、国の策として、それらが拡大される開発に力を入れることが必要と思うが、向かう方向が明確でない、具体的な形になることも困難。	・どうせ車椅子だから、そこまでなくても良いとか、「デザインが良いと書っても車椅子だし、自分には関係ない」と言ったり様々な認識の考え方や思いが障害とな ・道路交通法の規制緩和
グループ	シナリオの内容、イメージ、期待等	③左記に説明を追加、左記に追加したい事項、左記を実現する方法・手段、実現する上で課題等		
2.地方者	<p>【利用目標(シナリオ)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・車椅子利用者が社会参加していること</li> <li>・いろいろな機種・デザインの車椅子が回る</li> <li>・最近の技のように市場規模が大きくなると業者は機種やデザインを増やさないだろう</li> <li>・デザインへの改善</li> <li>・サイズだけでなく素材や色を選べること</li> </ul> <p>・眼鏡のような存在、おしやれに考えられると良い</p> <p>・価格が安く、メンテナンスがしやすいこと</p> <p>・車いすが自転車と同じ感覚で入手でき、メンテナンスできること</p> <p>【技術的課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・機能・使い勝手の向上</li> <li>・デザインブランドがあること</li> </ul> <p>【新製品の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・車椅子作製時の専門職の関わり</li> </ul> <p>【社会環境に関する課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市中に車椅子の展示スペース</li> </ul> <p>【問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・使いたくなるのは誰か、その要素はなにか</li> <li>・プレゼントとは健康者へのプレゼントもありうるのか</li> <li>・車いすを使うのは障害者だけか</li> <li>・地域にだけ込む配慮をするか、派手に主張するかは本人の価値観があるので考え次第</li> <li>・本来使いたくないもの、マイナス要素に変えるには利用者の理解を得る必要がある</li> </ul>	<p>③左記に説明を追加、左記に追加したい事項、左記を実現する方法・手段、実現する上で課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康者でも多くの人が利用している状況を作る。</li> <li>・携帯電話のようになくてはならない魅力ある移動ツールを目指す</li> <li>・世の中にはさまざまなパーソナルモビリティが提案されているが、誰とどう宣伝、公開されておらず、一人には情報が無い状況。</li> <li>・社会環境に適する車椅子の地方のための教育と教育システム。</li> <li>・学校や職場、公共交通機関の環境に適する車椅子地方のための教育と教育システムの構築</li> <li>・デザインの良さ</li> </ul>	<p>・専門職が関わることができるように、適合時の費用計上システム、使用技術を伝達するときの費用、改善や改造するときの費用など計上できるシステムと適合教育システムが必要</p>	<p>・社会環境に適する車椅子の地方のための教育と教育システム。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校や職場、公共交通機関の環境に適する車椅子地方のための教育と教育システムの構築</li> </ul> <p>・使ったときに「使う道具」としての車いすという概念はあるのか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・車いすについて、利用したくないものであっても、利用したら生活の質が向上する、できる事が増えることを理解してもらえると良い</li> </ul> <p>・使ったときに「使う道具」としての車いすという概念はあるのか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・移動が気持ちいい。</li> <li>・健康・障害の区別なく利用している。</li> <li>・社会環境に適する車椅子の地方のための教育と教育システム。</li> <li>・学校や職場、公共交通機関の環境に適する車椅子地方のための教育と教育システムの構築</li> </ul>
3.製造業者・供給	<p>【利用目標(シナリオ)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分でパーツをカスタマイズできる車椅子</li> <li>・高級ブランド製の車椅子</li> </ul> <p>【技術的課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国内外走行機能、自乗介助機能をすべて備えた車椅子</li> <li>・超軽量の車椅子</li> <li>・デザイン性の高いもの</li> </ul> <p>【制度的課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メンテナンス付きの車いすが支給の対象となる。</li> </ul> <p>【社会環境に関する課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・車いすCM</li> </ul>	<p>・安全面</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ライセンス</li> <li>・大手ブランドメーカーに社会貢献制度(流転等をとまふ)として車椅子あるいは付随品等の特許を義務付ける。</li> </ul> <p>・コスト面</p>	<p>・孫用サイドカー付き電動車椅子(老人の消費意欲向上)</p>	<p>・電動車椅子と手動車椅子、介助用車椅子で分けて記述すべきである。</p> <p>・製造業者・供給者への車椅子教育システムの構築、選り方・使い方教育システムを制度にする</p> <p>・健康推進と外出席度などの定量的なデータ取得と公表のしくみが必要である</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会環境に適する車椅子の考え方や教育システムの構築</li> </ul>
④その他(シナリオの問題点、シナリオの不明確な点等)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単に入手できること、身体に適合したものを選択することはもしもしれません。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者用(健康)パーソナルモビリティへの規制緩和</li> </ul>	

質問06 上記以外のシナリオを提案したい場合は、以下にお書きください。

利用者グループ	地方者グループ	製造・供給者グループ	研究開発者グループ
		製造・供給者グループ	研究開発者グループ
		製造・供給者グループ	研究開発者グループ

質問06 グループのシナリオについて、あなたが望ましいと思う順番、実現性が高いと思う順番、もっと検討してみたいと思う順番をお答えください。(1位から2位、3位まで数字を入れてください)

優先順位	利用者グループ		地方者グループ		製造・供給者グループ		研究開発者グループ	
シナリオ	1	2	1	2	1	2	1	2
実現性が高いと思う順番	01	1	1	1	1	1	1	1
	02	2	2	2	2	2	2	2
	03	3	3	3	3	3	3	3
	04	4	4	4	4	4	4	4
	05	5	5	5	5	5	5	5
	06	6	6	6	6	6	6	6
もっと検討してみたいと思う順番	01	2	1	1	1	1	1	1
	02	4	3	2	5	3	2	2
	03	3	5	3	2	3	3	3
	04	5	2	3	3	3	4	4
	05	6	4	4	4	4	5	5
	06	1	6	6	6	6	6	6
ワークショップで検討したいと思う順番	01	1	1	1	1	1	1	1
	02	3	2	2	2	2	2	2
	03	4	3	3	3	3	3	3
	04	2	4	4	4	4	4	4
	05	6	6	6	6	6	6	6
	06	5	5	5	5	5	5	5

質問07 その他意見、ご意見・ご指摘があれば、どのようなことでもかまいませんので、お知らせください。

利用者グループ	地方者グループ	製造・供給者グループ	研究開発者グループ
「この様な車いすを利用されている方が理解できると、考慮しやす」と思います。	「社会参加」とは何か、具体的な共通概念が必要だと感じました。	「車いす」は「車いす」ではなく「移動手段」として捉えたい。	「車いす」は「車いす」ではなく「移動手段」として捉えたい。
「制度」にしろならぬ発想が必要であるも、「制度」が実現するための課題なのか、「制度」の場への提案なのか、このシナリオの進捗可能な観点から見てほしい。	「制度」にしろならぬ発想が必要であるも、「制度」が実現するための課題なのか、「制度」の場への提案なのか、このシナリオの進捗可能な観点から見てほしい。	「制度」にしろならぬ発想が必要であるも、「制度」が実現するための課題なのか、「制度」の場への提案なのか、このシナリオの進捗可能な観点から見てほしい。	「制度」にしろならぬ発想が必要であるも、「制度」が実現するための課題なのか、「制度」の場への提案なのか、このシナリオの進捗可能な観点から見てほしい。
	「制度」にしろならぬ発想が必要であるも、「制度」が実現するための課題なのか、「制度」の場への提案なのか、このシナリオの進捗可能な観点から見てほしい。	「制度」にしろならぬ発想が必要であるも、「制度」が実現するための課題なのか、「制度」の場への提案なのか、このシナリオの進捗可能な観点から見てほしい。	「制度」にしろならぬ発想が必要であるも、「制度」が実現するための課題なのか、「制度」の場への提案なのか、このシナリオの進捗可能な観点から見てほしい。

付録 10 エバリュエータによる観察記録

10月7日			
Activities (with time)			
20121007 全体会議 1			
参加者の自己紹介	Phenomena		エバリュエータ (以下、EV) コメント
	Agent(s)	Details	
	利用者 F	「おぼさんの意見で恥ずかしいのですが…」云々	・何故、Fさんの意見はおぼさんの意見と思ったのか？ ・なぜ、おぼさんの意見は恥ずかしいと思ったのか？
	処方者 I	「まわりが立派な人たちばかりで…」云々	・なぜ、Iさんはまわりが立派な人たちばかりに見えたのか？
	製造供給者 N	「集中砲火されるのを覚悟で…」云々	・なぜ、Nさんは集中砲火される覚悟が必要だったのか？
	研究開発者 M	「期待を高くして参加した」	・研究・開発者の方は、他のグループの人たち (Fさん、Iさん、Nさん) と比較して、なぜか期待値がゆとりをもって参加している。参加者としての引け目を感じていないように見える。
	研究開発者 O	「おもしろい話が聞けるんじゃないかと期待を高くして参加した」「期待を高くして参加した」	
	研究開発者 I	「どういうニーズがあるのかを知りたくて…」	・気持ちに差があるのはなぜ？心理的ここらぶに差があるのは興味深い。
これまでの活動の紹介	Phenomena		EV コメント
	「これまでの活動の紹介」と今回のワークショップとの関連が上手く説明されていない。		・「つまり、どういうことなのか」の説明が、もう少し噛み砕いてなされる必要がありますか？
	“下からつみあがる”という表現を用いて説明がなされていた。		・そのひと手間がないと、開発・研究活動に縁のない参加者がなんだか取り残された感じになりませんか？
	外来語や専門用語が多用されていた。		・bottom-up とか top-down とかもう、アプローチの方向についての言及なのだと思うのですが、研究に馴染みのない素人にはわかりにくい表現のように思いますが…どうですか？
	“車”の未来”という表現も適切な表現なのか？		・例えば、participation、ロードマップ、ステークホルダ、シナリオなど、素人には理解しにくい言葉ではありませんか？
	ロードマップの例示に用いた material は適切でしたか？		・参加者の想像力を喚起するフレーズなのか？ ・予備知識の差が、参加者の相互交流の妨げになりませんか？ ・“ロードマップ”に興味のない人にはピンとこなかったかも…。
20121007 全体会議 2			
会議のすま方の紹介	Phenomena		EV コメント
			・小林先生による会議の進め方の説明を聞いた後でも、「グループ内で意見を出し合う」ということが、具体的にどういうことなのかはわからなかった。 ・「とにかく議論しなければならぬ」とことはわかったが、「何について議論すればよいのか」全くイメージが湧かなかった。
事前シナリオの紹介	Phenomena		EV コメント
	「シナリオとはなんぞや？」という説明は十分ではなかった。		・6つの事前シナリオの作成方法は？
	「実現したい将来のシナリオ」を導き出すというのは、表現が抽象的過ぎる。		・なんだが、ものすごくバイアスのかかったシナリオのように感じた。 ・ストーリー化して構造化してことですか？
	「あつたらしいなと思う夢のような車」の実現を目指すという Workshop のモットーと、事前シナリオで表示されている車」の次元ギャップがある。		・6つの事前シナリオから3つを選ぶ理由は何ですか？
	ストーリー化の説明が十分ではない。		・事前シナリオはタイトルに多少の趣意はあるが、6つとも似たり寄ったりで、参加者は選択しにくそうでした。それは意図的に仕組んだことなんですか？
	どういった手続きで6つの事前シナリオが抽出されたのかについての説明は十分ではなかった。		・各事前シナリオ内の言葉の定義が曖昧、例えば、「社会環境」の環境は、「環境づくり」の環境と同じ意味？ ・各事前シナリオ内の目標と課題とに関連性はあるのか？
6つのシナリオを表示され、そこから3つを選ぶように指示された参加者はものすごく戸惑っているように見えた。		・事前シナリオのエッセンス (ポストイット) は Negative aspects のみか抽出されているように見えます。	
事前シナリオの審議の際、Q&Aに参加していたのは全体の5人だった。		・事前アンケートの中に Positive aspects は含まれていませんでしたか？もしそうなら、そのアンケートそのものの質問問題があまりはしませんか？	
事前シナリオの選択	Phenomena		EV コメント
	(シナリオ3件の決定の際の) 参加者のつぶやき		・グループ内でのアイスブレーキングの準備が足りていないですか？意見の出方が変わるかもしれませんが。
	利用者 S	「選びづらい」	・日頃から意見を人前で発表したり、誰かと議論する事に慣れている人 (例: 研究者や開発者) の“アイス”と、慣れていない人の“アイス”では理解方が異なりはしませんか？
	研究者 Y	「“他、やすい”ということには“ラザイン”の問題が含まれている」	
	開発者 S?	「開発者としては、経済の問題に特化すると… (やりにくい)」	
	研究者 M	「シナリオの主語が、シナリオ6だけ違う。視点が異なる。」	
		Phenomena	EV コメント
「不採用のシナリオもどんだん活用する」とあるが、活用されているようには見えなかった。			

	エッセンスをグループ化して、そのグループに名前をつける作業をどのように行うかの指示がなかった。	・具体的な練習をしていなかったが、適切な名付けができるのか？	
20121007 グループ協議 1			
シナリオ2件作成			
処方者 15:30~	Phenomena		EV コメント
	Agent(s)	Details	
	処方者	「このWSで生み出された結果がどのように活用されるのか気になる。ロードマップ化? 方法論?」	
	処方者	「報告書止まりにならないように、せめてモデル化を!」	
	処方者	「臨床現場では待ったなしの問題に直面している。より具体的な話をしたい。」	
	処方者	「WSのタイムテーブルに対して」「進行が時間通り進んでいるが、時間の制約が気になり“意見を言おうと思ってもぐっと止めた”。今の所、スケジュールが優先され感に感じる。」	
処方者	「私はPTで、(臨床家) 利用者中心で診ている。最初は、研究者や開発者と物事の見方が違うかと思わずし不安だった。しかし、実際に組んでみて、問題はなかった。」		
		Phenomena	EV コメント
イーゼルに貼付けた事前シナリオの模造紙がテーブルから離れていた。		・模造紙をテーブルの上に置き、それを開いて話を進めれば、事前シナリオのポストイットが活用できるのではないか？	
15分過ぎて、事前シナリオの模造紙も興味を失っていた。			
主たる発言者は5人中の4人、Iさんがあまり発言できていなかった。			
利用者 15:50~16:05	Phenomena		EV コメント
	どうやってより良い車」を手にするかに関するエピソード提示 (エピソード披露)。特に F (親)さんと Y (親)さん。		
	利用者 S さんは聞き役になっていた。		・当事者ユーザと介護者 (特に親) ユーザとでは視点異なるのでは？ ・また、発達障害と中途障害でも違いがあるのかも。
参加者のつぶやき			
利用者 S	「(親以外)は若い人と親の方だったので、熱い思いの人たちだった。聞き役になって、(その熱い思い) 流されたように思う。いろんな立場があるから…」		
製造・供給者 16:05~	Phenomena		EV コメント
	供給者 S さんが電撃的発言。それに対して、供給者 N さんが「うん、うん」と頷くが、続いての発言には至らない。		
	参加者が断断续续発言できていない。発言者は5人中1-2人ぐらい。		
	事前シナリオを初に広げていた。ポストイットが手近で操作できていた。		
	イラストレーター N さんの表情が困ってそう。		・ファシリテーター S が議論を facilitate しているようには見えない。 ・結局“制度の問題”という話で議論がどん詰まりになり、具体的な話が引出せていないように見えました。
	参加者のつぶやき		
イラストレーター N	「制度の話がたくさん出た。しかし、参加者は制度の専門家ではないので、議論が進まない所があった。」		
イラストレーター N	「“聴き・供給業者間で横の繋がりがある”といった積極的な話も出てきているので、さらに掘り下げて行けるのではないかと思う。」		
イラストレーター N	「発言者に偏りがある。発言してくれる人の意見だけでシナリオを作成する事は可能だが、あまり発言していない人の意見をまら、全体の意見を統合してシナリオを練りたいと思っている。」		
開発者 16:23~	Phenomena		EV コメント
	実務的な点で、ファシリテーターはイラストレーターをサポートしていた。例えば、事前シナリオのポストイットをホワイトボードにはり直す、聞き役になっている参加者に発言の機会を与えるなど。		・事前シナリオのポストイットを一番活用していたのは開発者グループ。 ・進行役を務めるイラストレーターだけでは、議論の内容と事前シナリオのポストイットとの関係性までまで気をまわすのが難しく、そのタスクをサポートをファシリテーターが上手く担っていた。 ・イラストレーターは車」の専門家ではないので、事前シナリオのポストイット

		が「つまり何を意味しているのか」の妥当な情報も難しい。このグループでは、解像度を率先してファシリテーターが担っていた。
	発言者は5人中5人	
20121007 全体会議3		
シナリオの共有	Phenomena	EV コメント
	各グループが選択した事前シナリオと作成したシナリオとの関連がわかりにくい。	・事前シナリオを活用できているグループと、使っていないグループとがあった。事前シナリオの取り込み方はイラストレーターに任せられているか？ ・3つの事前シナリオから2つのシナリオが生み出される理由がよくわからない。その説明は、最終的にはイラストレーターに解釈と統合力に依存するように見える。 ・しかし、議論をきれいにまとめあげることが目的ではないと思われるので、イラストレーターは解釈し過ぎず、全体を一般化しすぎずシナリオを作るのが望ましいのだと思った。
	シナリオにつけるタイトルの決定は手こずる作業のようにみえた。	・タイトルは、シナリオ全体を的確に捉えたテーマである。しかし、このWSでは、タイトルには具体的であることが求められている。包括的であることと具体的であることの相容性のない側面をどのように negotiate するのが難しい所だと思った。 ・参加者は「どういうことが具体的になのか」ということを十分理解していたのでしょうか？ ・発言する人が決まってきました。
	全体会議の発言者は38人中10人程。	
その他		
	Phenomena	EV コメント
		・ファシリテーターとイラストレーターの役割？協業の方法？連携の仕方？などは、統一する必要はないが、今一度確認したほうが良いのでは？今回のWSでは、各イラストレーター、各ファシリテーターに任せられているのかもしれませんが… ・エッセンスが抽出され、グループ化したものご名前をつけ、ポストイットに書く作業を担うのはファシリテーター？イラストレーター？参加者との協業？とにかく、議論をテンポよく進めるためには、イラストレーターの負担軽減が必要かもしれません。 ・マイクがあったほうが良いのかも…。
	発表する参加者の声が聞こえないことがあった。	

5月 0月8日

Activities (with time)		
20121008 グループ討論開始前		
	Phenomena	EV コメント
製造・供給者/処方者	各人のキャリア背景について情報交換し合う	
製造・供給者/処方者	日頃の業務について、和気あいあいと雑談する	
製造・供給者	談笑している	・前日のグループ討論の中では談笑はあまりなかったが、より打ち解けた人間関係になっている。
20121008 グループ討論2		
製造・供給者 10:04~	Phenomena	EV コメント
	ファシリテーターSの投げかけ「機能の議論はどうだったか？」に対して；	
	Agent(s)	Details
	N	「昨日は」難しく考えすぎて…なかなか」と苦笑。
	N	「利用者Yさんの話でいろいろと気がついた」
	S?N?	「昔を振り返る事が、未来を考える事につながる」云々
イラストレーターN	「すごい良い意見が出てきた。15年後が見えてきた。」	・イラストレーターNが嬉しそうでした。
参加者のつぶやき		
イラストレーターN	前日は「当面の問題」に捕われてしまい、話し合いが頓挫せず、結局の所「制度の問題」ということに落ち着いてしまう傾向があった。そういう流れを変えたいために、今日は思い切って「15年後の未来を考えよう」という投げかけをしてみたら、上手く話が進んだ。	・イラストレーターの口火の切り方に、そのような意図性があったのは観察していてもわかった。
開発・研究者 10:20~		
	Phenomena	EV コメント
	前日より、開発・研究者Sの発言内容の抽象度が上がっている。	・Sさん以外の発言も生々しい表現が消えて、一般論的な言い回しになっていった。この傾向は、この時点の議論において望ましい現象なのでしょうか？あるいは、「生々しい」表現が出来るだけ残っていたほうが良いのでしょうか？ ・ファシリテーターIによって、「つまりそれって、〇〇ってことなんじゃないですか」「そういうことで、いいですね」と話し合いをまとめる働きかけが積極的にに行われていました。しかし、そのまとめめが、参加
	具体的なエピソードがなくなっていて、これまでに出た意見をグループの参加者がまとめあげる作業（一般化？）を行っていた。	
	まとめる作業にファシリテーターIが積極的に関与していた。	

	議論が方向性の軌道修正にファシリテーターIが積極的に関与していた。	者の意見を十分に代弁したものかどうかはわかりませんでした。
処方者 10:32~	Phenomena	EV コメント
	特になし	
利用者 10:40~	Phenomena	EV コメント
	ファシリテーターKが「残り時間が少ないので、次に進みましょう」と促しても、イラストレーターMはすんなりとは反応しなかった。	・参加者の意見がまだ出ていないから、イラストレーターMは意見の喚起と上げ作業をやめたのか？もしそうなら、data gathering をどの時点で切り上げるのかについて、イラストレーターとファシリテーターとの間でコンセンサスを持っていたほうがよいのでは？ ・利用者Sさんは遠慮していたのでしょうか？
	利用者Yさん（親子共）や利用者Fさんは、前日以上に、意見を求めればほとんど話がでてきていた。一方で、利用者Sさんに関しては、前日程ではないにしても、控えめな感じは変わらなかった。	
処方者 10:55~	Phenomena	EV コメント
	特になし	
製造・供給者 11:05~	Phenomena	EV コメント
	特になし	
研究・開発者 11:08-11:15	Phenomena	EV コメント
	特になし	
全体を通して	Phenomena	EV コメント
	アイデア出しに留まっており、時間軸こそとしまめていない。エッセンスが整理し付けられているようには見えない。	再びですが… ・「シナリオとは何ぞや？」という疑問が湧いてくる。 ・グループ化したエッセンスを時間軸につなげることに、どんな意味があるのか？ ・ストーリー化とはどういうことなのか？ ・キーワードの概念が明確じゃないから、全体が統一感が無い。
20121008 全体会議4		
ロードマップの相互理解	Phenomena	EV コメント
	シナリオを持って巡回	・巡回する意義は他グループから意見をもたう機会であると同様に、各専門グループの考え方を他グループに知ってもらう機会。
	グループ間での気づき合いの場 →グループ内で出なかった意見の交換 →重複している意見を確認し合う	・みんな、楽しそう。 ・同一グループで議論を続けるのは、閉塞感があったのか？
20121008 グループ討論3		
研究・開発者 13:15~	Phenomena	EV コメント
	特になし	
製造・供給者 13:37~	Phenomena	EV コメント
	イラストレーターNは、メンバーの意見を取り、それをポストイットに書いて、時間軸に振り分けている。	・それ以外の？時間軸と落とし込むというの、そういうことなのでしょうか？ ・ファシリテーターSは議論をfacilitate しているようには見えない。
処方者 13:45~	Phenomena	EV コメント
	具体的に細かい所までロードマップが描かれており、参加者は「方向性を明確化できた」と実感していた。	・最終的な話の整理は、初日と大きくは変わっていないのでは？ ・「車いすの未来を…」というよりは、現在直面している問題を解決するためのロードマップという感じがした。とても興味深い。 ・イラストレーターHの解釈・統合力と画力に頼り過ぎてはいないか？ ・自分たちの議論の内容をcriticalに吟味することはとても難しいことなんだろうなあ。
利用者 13:53~	Phenomena	EV コメント
	グループの連携中での作業は、主にイラストレーター・ファシリテーター・会場係(K)で行われていた。	・参加者が参加できていないように見えた。
20121008 全体会議5		
ロードマップ案の共有	Phenomena	EV コメント
	特になし	